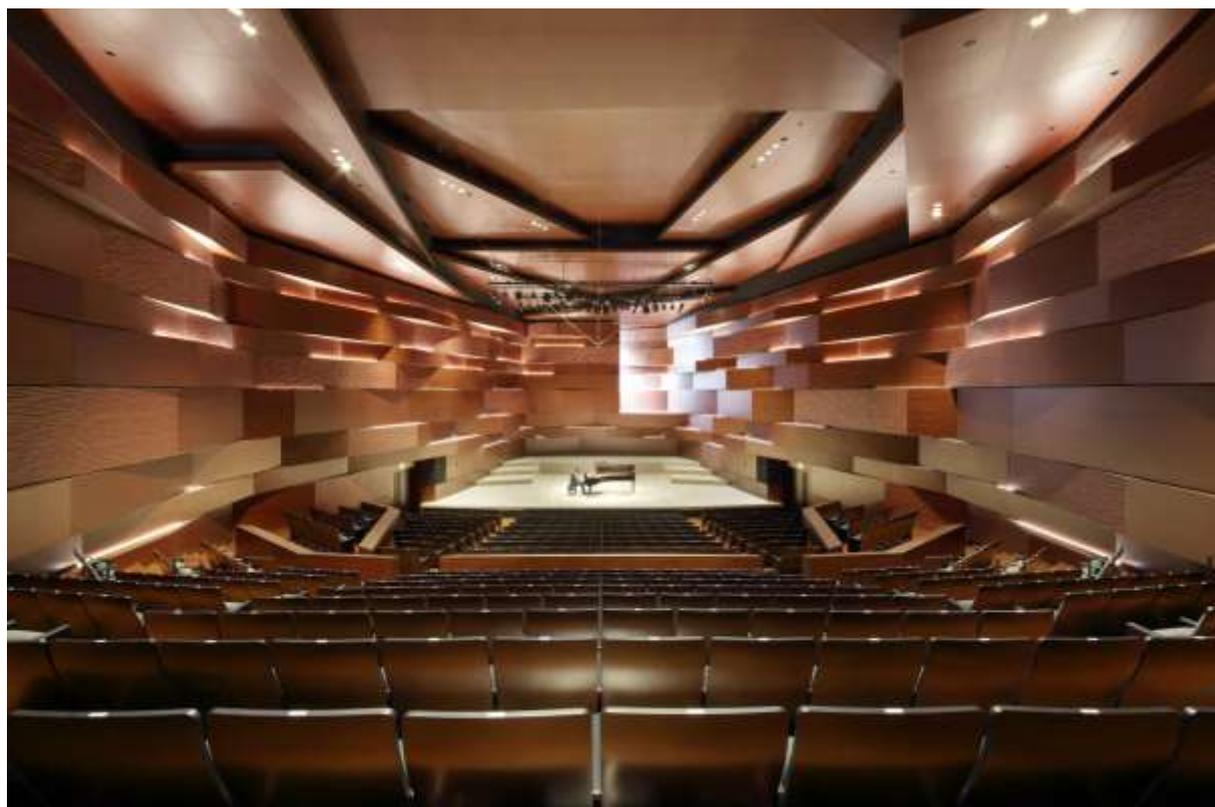


2021 年度(令和 3 年度)

事業報告書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)



TCM

学校法人東京音楽大学

事業報告書目次

I. 法人の概要

1. 法人の理念等・目的	1
(1) 創設の理念と建学の精神	
(2) 東京音楽大学の教育目的等	
(3) 東京音楽大学ビジョン	
2. 設置学校	4
3. 沿革	4
4. 法人組織図(教育・研究組織)	6
5. 法人・事務組織図	7
6. 役員・評議員の概要	8
7. 設置学校の入学定員・収容定員・学生数	9
8. 附属図書館蔵書数	10
9. 教職員数	11

II. 事業の概要

1. はじめに	12
2. 2021 年度基本方針の実施	12
(1) 新型コロナ又はコロナ後の「新たな教育・学修方法」の検討・樹立	
(2) 東京音楽大学における教育の内部質保証に関する取組みの推進	
(3) 東京音楽大学における教学マネジメント改革	
(4) 第Ⅱ期中期計画の策定	
(5) 東京音楽大学ビジョンの実現	
(6) クリエイティブ・キャンパス構想の推進	
3. 中期目標・中期計画及び事業計画に関する活動等	16
3-1. 東京音楽大学	16
(1) 教育活動	16
(2) 研究活動	21
(3) 学生支援活動	24
(4) 入試・広報活動	29
(5) 国際化	32
(6) 地域連携・社会貢献活動	32
3-2. 附属教育研究組織	39
(1) 附属図書館	39
(2) 附属民族音楽研究所	47

3-3. 附属学校等	50
(1) 附属高等学校	50
(2) 附属幼稚園	53
3-4. 業務運営の改善及び効率化	
(1) 組織運営	56
(2) 事務の効率化・合理化	56
(3) 自己点検・評価活動の充実	61
3-5. 法人運営の改善	
(1) 経営・ガバナンス強化	62
3-6. 施設整備計画	62
(1) 教育研究備の整備	62
(2) 安全管理	63

III. 財務の概要

1. 決算の概要	64
(1) 貸借対照表の状況	65
(2) 収支計算書の状況	66
2. 基本金明細表・主な財務比率	69
3. 財産目録	70

I. 法人の概要

1. 法人の理念等・目的

(1) 創設の理念と建学の精神

東京音楽大学は、鈴木米次郎により1907年に設立された東洋音楽学校を前身とする、我が国で最も古いルーツを持つ私立音楽大学である。1963年に4年制大学として認可され、続いて1969年に東京音楽大学と名称変更し、1993年に大学院音楽研究科修士課程を、2014年に博士後期課程を設置し、現在に至っている。

創立者、鈴木米次郎は常々「音楽を通して社会に貢献する」と語り、私立学校設立認可願にも「汎ク音楽ニ関スル学科及術科ヲ以テ高潔ナル品性ノ修養ヲ得セシムルニアリ」と記されている。鈴木は、西洋音楽に関する学問の探求と高度な音楽技量の修得を通じて教養豊かな音楽家及び音楽教育者を育成し、それによって社会に貢献することを願っていた。

この創設の理念は、東洋音楽学校の創立当初より、修業年限を東京音楽学校(現・東京藝術大学)と同じ3年(他の私立音楽学校は1~2年)とすること、点字楽譜を開発すること、清国留学生を積極的に受け入れること(これら留学生は中国における西洋音楽教育普及に尽力した)、卒業生を「船の楽士」として太平洋航路の客船に乗船させること等の活動を通じて実現されてきた。

今日、この理念は、学校法人東京音楽大学の建学の精神として「アカデミズムと実学の両立」、「音楽による社会貢献」、「国際性」として結実している。

本学が設置する東京音楽大学では、これらの建学の精神を教育研究活動の基盤として、第一線で活躍する教師陣等による我が国でも最高レベルの教育水準を保つとともに各国の音楽教育機関との連携協力を図るばかりでなく、地域社会との関係性を重視することにより、国内外の著名なコンクールやオーディションなどの入賞者、入選者を例年多数輩出し、音楽界、教育界、さらに近年では音楽産業その他の分野にも優れた人材を送り出すに至っている。また、附属音楽高等学校及び附属幼稚園においては、各校の教育に大学の教育研究成果を反映するとともに、大学との連携を重視した教育を行っている。

(2) 東京音楽大学の教育目的等

東京音楽大学学則には、設置目的、教育目的を次のように規定している。

第2条 本学は、教育基本法の精神に則り、広く一般教育の知識を授けるとともに、音楽の専門教育を行い、これを通じて人格の完成をはかり、もって有為な音楽家を育成することを目的とする。

第2条の2 本学は、音楽芸術の研鑽を通じて、高度な専門性を有した音楽家、音楽教育者を育成する。また、自らの音楽的個性とともに幅広い教養を備え、現代社会の様々な局面に対応しうる人材を育成することを教育目標とする。

東京音楽大学大学院学則には、次のように規定されている。

第2条 本学大学院は、広い視野に立って、音楽に関する精深な学術と技能を修得させ、音楽専攻分野における研究能力と高度な専門性を有する職業等に必要とされる能力を養い、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的とする。

(3)東京音楽大学ビジョン

近年、大学を取り巻く環境が様々に変化する中、迅速かつ柔軟に対応することが求められており、本学が目指すべき方向性や将来像を明確にし、本学の社会における存在意義や基本的な使命を示すため、「東京音楽大学ビジョン」を次のとおり策定した。

東京音楽大学ビジョン

— 音楽文化の新たな地平を拓く —

東京音楽大学は、1907年の開学以来、建学の精神である「音楽を通して広く社会に貢献できる人材の育成」を目標に、演奏活動を通じて海外協定機関等との緊密で多様な音楽文化の交流を育みながら、演奏力を安定的に発展、成熟させるとともに、教育研究の世界展開に多くの成果を挙げてきました。

本学は、急速な技術革新やグローバル化が進展する現代社会にあって、伝統を継承しつつ、常に新たな教育と研究の道を模索してきました。2017年4月には、音楽を柱に、教養と英語の能力も身につけて世界のあらゆる分野で活躍できる人材を育成する「ミュージック・リベラルアーツ専攻」を開設し、2019年4月には、新たに「中目黒・代官山キャンパス」を開校するとともに、「吹奏楽アカデミー専攻」を開設するなど、教育研究の質の飛躍的向上と充実に取り組んで参ります。

新しい時代に向けて音楽文化を創造し、音楽により、また音楽を通して、急激に変化する社会の様々な要請や期待に応えていくことを目指して、「東京音楽大学ビジョン」を定めました。

1. 全学を挙げた先進的な活動により、音楽文化の新たな地平を拓きます。

音楽は、人間の感性に直接働きかける力を持ち、あらゆる境界を越えて広がっていく可能性を秘めています。

本学は、先進的な教育、研究及び社会貢献等を基盤として、人の心を自由にし、豊かな未来を実現する音楽文化の新たな地平を拓きます。

2. 変化し続ける社会を見据えて、音楽で感動を与え、音楽で明日をつくる人材を育成します。

急速な技術革新やグローバル化等により絶えず変化する社会にあって、音楽大学には、演奏や音楽活動を通して人びとに感動を与え、その精神を崇高にし、多様な価値観を受け止められる感性を有する人材の育成が求められます。

本学は、学生一人ひとりが音楽に関する高度で専門的な知識・技術とともに豊かな教養を身につけ、西洋・東洋の枠を超えた多様な音楽文化や、音楽とITを融合する最先端の分野等についても多角的な視点を持った人材を育成し、社会のニーズに応えます。

大学院教育については、その質の格段の向上と、未来を牽引する人材を育成する観点から、教育研究組織の改編を含め抜本的な改革を推進し、その進化を図ります。

3. 音楽文化の多角的な研究を展開し、広く成果を発信します。

音楽文化の多様化、複雑化が進む現代において、未来を切り拓く多彩なアプローチによる音楽文化に関する研究や、本学の強みである演奏法や指導法の開発を推進し、異分野の研究者との共同研究を組織的に展開します。これらの最新の研究成果を教育に反映するとともに、世界に発信します。

また、附属民族音楽研究所においては、アジア音楽の研究拠点として創造的な研究を推進します。

4. 双方向の国際交流を活発化し、多文化が共存するキャンパスを目指します。

グローバル化が進展する中で新たな音楽文化を創造するには、歴史とともに社会をよく知ることが求められ、多文化が共存するキャンパスであることが不可欠です。

多様な価値観を尊重することの重要性を踏まえ、教職員、学生及び教育研究等について双方向の国際交流を活発化するとともに、多様な背景を持った人の受入れを積極的に推進します。

これらを通して国際性に富んだ人材を育成するとともに、国際交流推進のための環境整備を図ります。

5. 鋭意音楽活動を展開し、地域社会の活性化、文化力の向上に積極的に貢献します。

音楽活動を通じて地域社会から求められる社会貢献活動を行い、地域社会の活性化及び文化力の向上に貢献します。

そのため、地域社会に開かれた大学として、自治体、音楽関係団体、音楽コミュニティ、さらに校友会等との連携及び協働によるコンサート、公開講座、ワークショップ、音楽祭等を活発に展開します。また、自治体、産業界、音楽コミュニティ等の要請により本学の学生及び教職員を積極的に派遣し、魅力ある地域づくりに貢献します。

6. クリエイティブ・キャンパスを創出・運営し、構成員が自ら成長し続ける大学を実現します。

本学は、2019年4月に中目黒・代官山キャンパスを開校し、従来の池袋キャンパスとの連携の下、機能性、創造性、知的生産性、安全性及びICT環境等を備えた「クリエイティブ・キャンパス」を創出・運営して、教育研究の質の一層の向上を図るとともに、教職協働による働き方改革を積極的に推進し、教職員及び学生が自ら成長し続ける大学を実現します。

また、附属高等学校を池袋キャンパスに移転統合して実効性のある高大接続改革を推進します。

そのため、大学の将来を見据えた経営戦略に基づく財務計画を策定し、中長期的な財政基盤の確立を図ります。

2. 設置学校

(1) 東京音楽大学

音楽学部	音楽学科	器楽専攻 / 声楽専攻 / 作曲指揮専攻 / 音楽文化教育専攻 / ミュージック・リベラルアーツ専攻 / 吹奏楽アカデミー専攻
大学院音楽研究科(修士課程)		器楽専攻 / 声楽専攻 / 作曲指揮専攻 / 音楽文化研究専攻
大学院音楽研究科(博士後期課程)	音楽専攻	

(2) 東京音楽大学付属高等学校

音楽科	声楽専攻 / 器楽専攻 / 作曲専攻 / 音楽総合コース
-----	------------------------------

(3) 東京音楽大学付属幼稚園

3. 沿革

【明治】

1907年(明治40年)5月 東洋音楽学校設立(神田区)

【大正】

1924年(大正13年)11月 豊島区雑司ヶ谷(現南池袋)に移転

【昭和】

1947年(昭和22年)5月 財団法人東洋文化学園と改称

1949年(昭和24年)3月 東洋高等学校(音楽科)開設

1950年(昭和25年)2月 東洋幼稚園開設

1951年(昭和26年)3月 学校法人東洋文化学園認可

1954年(昭和29年)2月 東洋音楽短期大学設置認可

1963年(昭和38年)2月 東洋音楽大学設置認可

1969年(昭和44年)8月 名称変更認可

- ・学校法人東洋文化学園を学校法人東京音楽大学に改称
- ・東洋音楽大学を東京音楽大学に改称
- ・東洋高等学校を東京音楽大学付属高等学校に改称
- ・東洋幼稚園を東京音楽大学付属幼稚園に改称
- ・東洋音楽学校を東京音楽学校に改称

1970年(昭和45年)3月 東洋音楽短期大学廃止認可

1976年(昭和51年)7月 東京音楽学校廃止認可

【平成】

1993年(平成5年)3月 東京音楽大学大学院音楽研究科修士課程設置認可

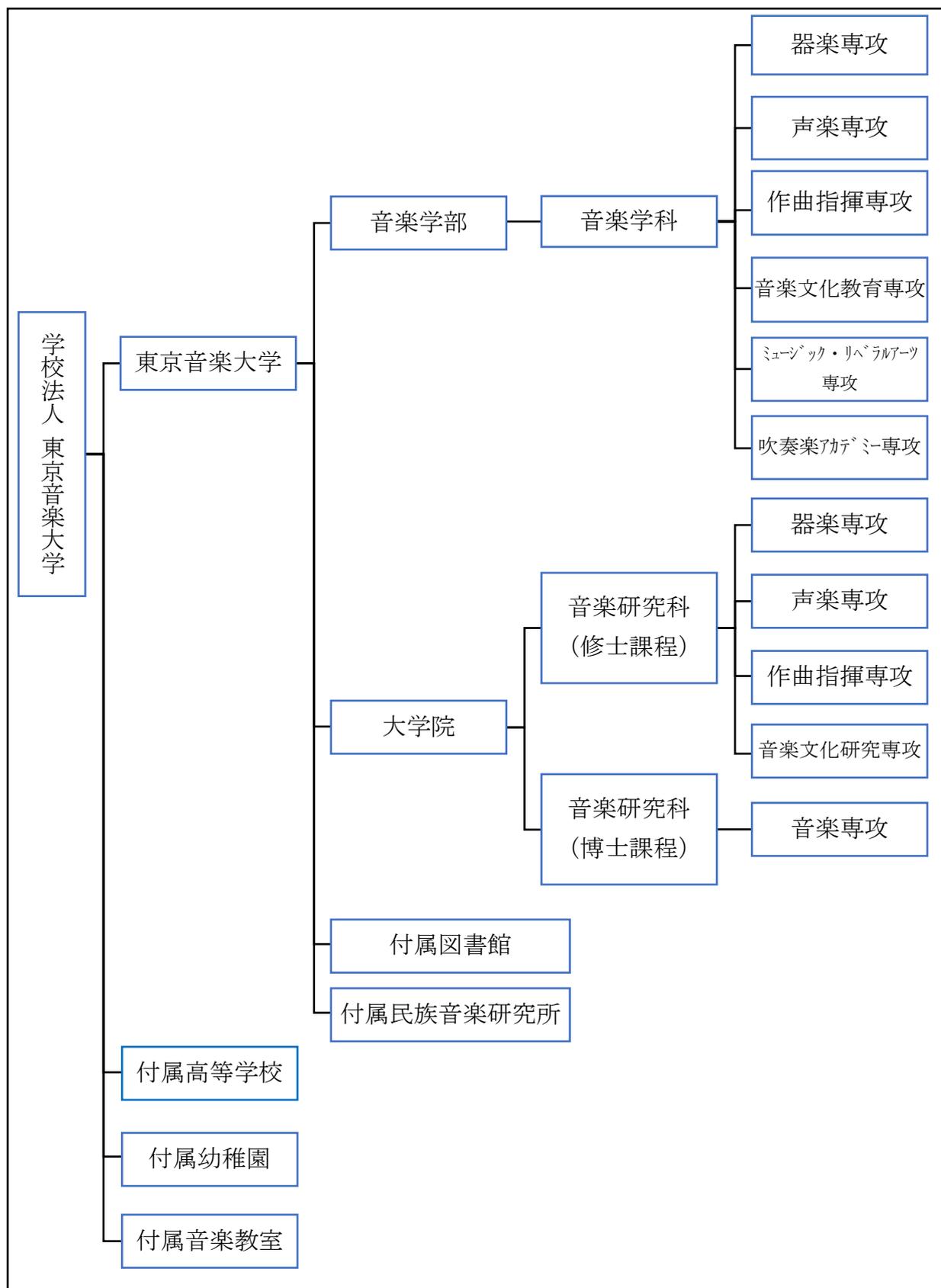
- 2007年(平成19年)5月 創立100周年を迎える
- 2014年(平成26年)4月 東京音楽大学大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程開設
- 2017年(平成29年)4月 東京音楽大学音楽学部音楽学科ミュージック・リベラルアーツ専攻開設
- 2019年(平成31年)4月 中目黒・代官山キャンパス開校
東京音楽大学音楽学部音楽学科吹奏楽アカデミー専攻開設

【令和】

- 2020年(令和2年)4月 東京音楽大学附属高等学校池袋キャンパス開校
音楽文化教育専攻改編
- 2021年(令和3年)4月 東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻(作曲「ミュージック・メディアコース」)新設

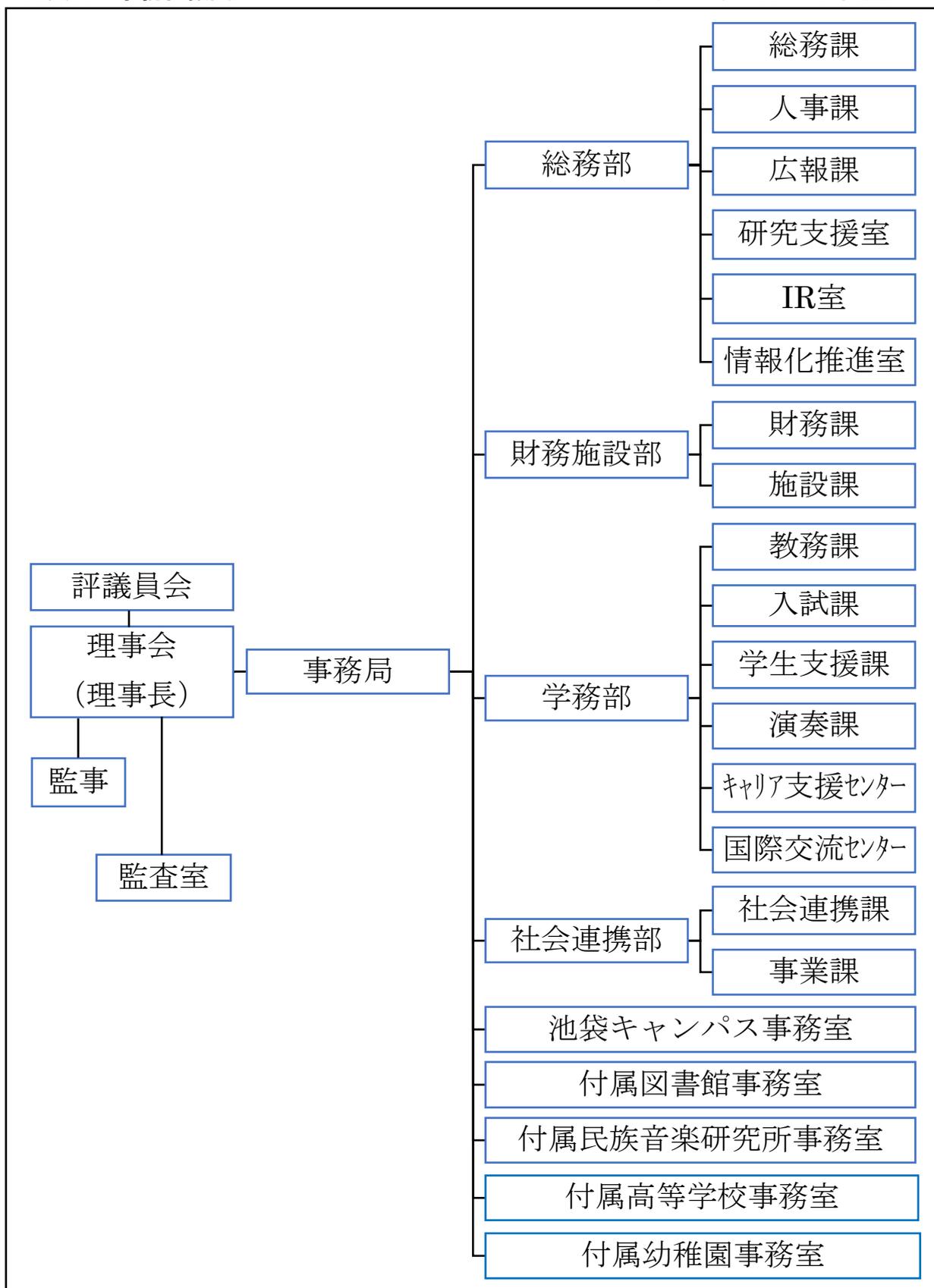
4. 法人組織図(教育・研究組織)

(2022年3月31日現在)



5. 法人・事務組織図

(2022年3月31日現在)



6. 役員・評議員の概要(2022年3月31日現在)

役員	理事長	丸山恵一郎		
	理事・学長	野島 稔		
	理事・副学長	武石みどり		
	理事	佐々木正峰	高祖 敏明	保倉 裕
		福島 啓充	池田 千絵	永井 義美
	監事	吉田 恭治	船戸 輝久	

評議員		丸山恵一郎	池田 千絵	武石みどり
		加納 里美	西村 朗	大谷 康子
		渡辺 裕	釜洞 祐子	坂崎 則子
		小森 輝彦	岡田 敦子	豊永 聡美
		渡辺 国彦	石井 克典	川上裕美子
		永井 義美	佐藤 敏明	藤田 義明
		広上 淳一	上田 広美	



7. 設置学校の入学定員・収容定員・学生数

(2021年5月1日現在)

○大学

学 部	入学 定員	収容 定員	学生数		
			男	女	
音楽学部音楽学科	310	1,240	1,374	289	1,085
器楽専攻	193	772	888	169	719
声楽専攻	47	188	204	30	174
作曲指揮専攻	23	92	101	57	44
音楽教育専攻 (1年生は音楽文化教育専攻)	20	80	70	15	55
ミュージック・リベラルアーツ専攻	12	48	92	13	79
吹奏楽アカデミー専攻	15	60	19	5	14

○大学院修士課程

研究科	入学 定員	収容 定員	学生数		
			男	女	
音楽研究科	70	140	165	38	127
器楽専攻	36	72	89	21	68
声楽専攻	21	42	35	5	30
作曲指揮専攻	5	10	11	8	3
音楽文化研究専攻	8	16	30	4	26

○大学院博士後期課程

研究科	入学 定員	収容 定員	学生数		
			男	女	
音楽研究科	3	9	16	5	11
音楽専攻	3	9	16	5	11

○付属高等学校

	入学 定員	収容 定員	学生数		
			男	女	
東京音楽大学付属高等学校	70	210	230	43	187

8. 付属図書館蔵書数

(2021年4月1日現在)

蔵書種類		冊数	冊数小計
書籍	和書	28,851冊	54,852冊 (内、eBook 678点)
	洋書	26,001冊	
楽譜		70,233冊	70,233冊
A V	録音	CD	27,454点
		レコード	14,749点
		カセット/その他	706点
	映像	DVD	2,230点
		LD	1,993点
合計		172,217点	
雑誌	和書	651タイトル	1,097タイトル
	洋書	446タイトル	



9. 教職員数

(2021年4月1日現在)

	専任						兼任						合計	研究員	事務局	総計
	教授	准教授	講師	研究員	その他	計	客員教授 特任教授 兼任教授 特別招聘教授	客員講師 特任講師 講師	客員講師 特任講師 講師	助教	助手	計				
ピアノ	5	8	9			22	11		46			57	79	7		86
弦	9	1	1			11	13	1	17		1	32	43			43
管・打	4	4				8	7	3	34		6	50	58			58
バロック等									4			4	4			4
邦楽									4			4	4			4
声楽	6	6	10			22	2		27	1	15	45	67	14		81
作曲	6	2	3			11	13	1	18		2	34	45	1		46
指揮	3					3	1		12	4	19	36	39	4		43
リトアニア		2				2	2		8		3	13	15			15
音楽文化 教育	1	2				3			7			7	10			10
ミュージック・ リベラルアーツ							8		3			11	11			11
吹奏楽 アガミー	1	1				2	5		16			21	23			23
教職 課程	4	2				6	2		10			12	18	1		19
音楽学	4					4			5			5	9			9
外国語	2					2	1		20			21	23			23
教養 科目	2	5				7	2		6			8	15			15
事務局															76	76
合計	47	33	23			103	67	5	237	5	46	360	463	27	76	566
大学院							3	1	6			10	10			10
民族音楽 研究所	1			1		2	2	1	5			8	10	2		12
高校			1		10	11			38			38	49		3	52
幼稚園	1				13	14			2		4	6	20		1	21
音楽 教室									13		2	15	15			15
総計	49	33	24	1	23	130	72	7	301	5	52	437	567	29	80	676

II. 事業の概要

1. はじめに

学校法人東京音楽大学は、1907年の開学以来115年にわたり、建学の精神と理念である「アカデミズムと実学の両立」「音楽による社会貢献」「国際性」を礎に、演奏活動等を通じて多様な音楽文化の交流を育みながら、演奏力の向上を図るとともに、教育研究の世界展開に多くの成果を挙げてきた。

第Ⅰ期中期計画期間(2016年度～2021年度)においては、学校法人を取り巻く状況が大きく変化中、新たな教育と研究の道を模索し、2017年4月には、東京音楽大学に音楽を柱に教養と英語の能力を身につけて、世界のあらゆる分野で活躍できる人材を育成する「ミュージック・リベラルアーツ専攻」を開設、2019年4月には、新たに「中目黒・代官山キャンパス」を開校するとともに「吹奏楽アカデミー専攻」を開設、2020年4月には、附属高等学校を大学キャンパス(池袋)に移転し、高大連携の一層の充実を図るなど、本法人は、設置学校の教育現場と常に連携・協働の下、一体となって教育研究の質の向上に取り組んできた。

近年は、教育を取り巻く状況の変化、少子高齢化の進展、グローバル化の加速、社会生活を大きく変える超スマート社会(Society5.0)の到来や第4次産業革命(AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等)の影響、SDGs・地方創生・人生100年時代を目指す社会など複雑な時代となっている。本法人は、このような予測不可能な時代において、次世代の担い手である学生・生徒が「何を学び身につけることができるのか」といった点に着目し、教育研究の一層の充実を図りつつ、音楽の深淵さと多様性の学びを通じて豊かな感性と教養を身につけ、国内外の音楽界をはじめとする幅広い分野において未来を切り拓いていける人材育成を目指している。

また、2021年度の新型コロナウイルス(COVID-19)感染症への対応を巡っては、学校法人東京音楽大学が設置する大学、高校、幼稚園において、遠隔授業・レッスンの導入、演奏会活動の制限とともに感染症の拡大を防止するための措置を講じてきた。その中で、学生及び教職員の感染症対策を徹底したことで学修機会の確保を進め、教育研究活動や学生の学修成果について、その水準を保証するための取り組みを実践してきた。音楽の分野に特化した大学として、次世代の担い手である学生が学修の成果を学修者自身が実感できる「学修者本位」の視点から教育の改革を推進してきたところである。

2021年度事業計画基本方針には、(1)新型コロナ又はコロナ後の「新たな教育・学修方法」の検討・樹立、(2)教育の内部質保証に関する取組みの推進、(3)教育マネジメント改革、(4)第Ⅱ期中期計画の策定、(5)「東京音楽大学ビジョン」の実現、(6)クリエイティブ・キャンパス構想の推進の6項目を掲げ、教育機関としての責任を果たすと同時に、将来を見据えて今後も持続的に発展していくため、確固たる財政基盤の構築を図りながら、以下に掲げるとおり事業を推進した。

2. 2021年度基本方針の実施

(1)新型コロナ又はコロナ後の「新たな教育・学修方法」の検討・樹立

新型コロナウイルス感染症拡大は、本学はもとより教育現場に大きな影響をもたらすこととなったが、政府、文部科学省、東京都からの感染対策、管理運営及び授業実施に係る各種通知、ガイドライン等に基づき、対策を講じつつ学修機会を確保して学生が質の高い教育を受けられるよう最善を尽くしてきたところである。

2021年度は、前年度秋学期対応として策定した授業実施方針(実技レッスン・実技系授業は対面、

講義形式授業は遠隔での実施を原則とする)を継続した。感染症拡大が長引く中、授業実施方針に基づく遠隔授業への対応については、学生・教職員とも授業運営を適切に実施することができた。また、新型コロナウイルスによって変更を余儀なくされた社会生活やデジタル化への急速な拡大と遠隔授業の定着傾向を踏まえ、音楽大学としての「新たな教育・学修方法」についての課題(①遠隔授業の評価と活用の検討、②学生ニーズ、教員意識の把握、③FD、SDの充実・強化、④遠隔授業の環境構築等)は、引き続き分析・検討を行う。なお、新型コロナウイルスに関する政府等の方針の動向や学内における対面授業を望む意見等を踏まえ、2022年度は、全授業を対面方式で実施する方針とした。

(2) 東京音楽大学における教育の内部質保証に関する取組みの推進

公益財団法人日本高等教育評価機構(以下「評価機構」という。)は、2016年3月の中央教育審議会「認証評価制度の充実に向けて(審議まとめ)」及び2018年4月施行の「学校教育法第110条第2項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令の一部を改正する省令」を踏まえ、3つのポリシーを起点とする内部質保証機能を重視した評価システムへと大幅な見直しを実施した。

このような背景の下、さらに、本学における内部質保証の確立を推進するため、「東京音楽大学内部質保証方針」を策定した。その基本的な考え方は、自主的・自律的な自己点検・評価を基盤とし、建学の精神と理念、教育目的、東京音楽大学ビジョンの実現に向けて、本学の教育研究活動等の状況について自己点検・評価を行うことにより、恒常的な質の向上を図るものであり、これらの取組み内容については、学外に積極的に発信することで、社会に対する説明責任を果たすとともに、社会的信頼の向上に努めることを目的としている。

また、内部質保証に係る全学の責任組織として、学長の下に「東京音楽大学内部質保証推進委員会」を設置し、自己点検・評価の結果を踏まえた改善を推進することで内部質保証を適切に機能させる体制を構築した。内部質保証委員会は、自己点検・評価委員会と連携し、本学の教育研究活動等における質の向上に資する取組みを推進することを目的とし、自己点検・評価の基本方針、評価項目及び評価指標等に関する事項、自己点検・評価の検証及び公表に関する事項、大学機関別認証評価及び第三者評価に関する事項やそれらの改善項目等について審議することとしている。

なお、内部質保証推進委員会の具体的役割・組織体制及び自己点検・評価委員会の具体的役割・組織体制について明確にするため、「東京音楽大学内部質保証推進規程(2022年3月1日施行)」を定めた。

(3) 東京音楽大学における教学マネジメント改革

2020年1月22日の中央教育審議会・第152回大学分科会で承認された「教学マネジメント指針」を文部科学省が公開した。2020年度はこのような背景において、本学の教学マネジメントについて学長のリーダーシップの下、全学的視点から検討を進めた。大きく変化する社会環境の中で、本学における教学マネジメントに関する課題と具体的な対処方針を整理し、『教学マネジメントに関する喫緊の課題への対応について』(2020年12月21日常勤理事会)を策定した。喫緊の課題として、「1、音楽学部に対する学生ニーズの減少傾向にどのように対応するか。」「2、本学における「教育の特色」をどう具現化するか。」「3、「教学マネジメント」をどのように実現していくか。」の三点を掲げ、具体的対処方針を策定した。これを踏まえ、カリキュラム改革(制度面からの課題、新設専攻の評価、

共通教育の再構、英語教育の充実等)を中心に、今般のコロナ禍又はコロナ禍後の「新たな教育・学修方法」の検討・確立及び教学マネジメント体制の整備について具体的な対処方針内容を定めたところである。また、教学マネジメントの充実・強化を図るため東京音楽大学教学主任設置規程(令和3年2月26日制定)を整備し、教学主任3名を配置した。教学主任は、副学長の指示の下、教学事務に関する課題について、教学事務担当者と連携協力して対応するとともに、担当する分野の関係委員会の副委員長を務め、新たな課題等の調査研究を行うことを業務としている。2021年度は、「教務・演奏・国際交流担当」、「入試・広報担当」、「学生支援・研究担当」の3名とし、副学長及び事務局関係部署と毎月1~2回の打合せを実施し、課題を共有するとともに、改善に向けて検討を行った。

○10月29日教学運営会議

- ・ソルフェージュや楽典の基礎クラスの正規科目化
- ・シラバス記載項目の見直し
- ・2022年度学事暦上の工夫：115周年記念演奏会や総合型選抜試験のために、授業を実施しない期間を設定
- ・「教員便覧」の作成(2022年5月配布予定)
- ・学修成果の可視化のためのWebツール導入の検討
- ・教員へのキャリア支援講座の周知
- ・大学Webサイトの見直し、新規SNS(instagram)開設

(4) 第Ⅱ期中期計画の策定

改正私立学校法(2020年4月1日施行)では、事業に関する中期的な計画作成が義務付けられたところである。本学は、2015年度に策定した中期目標・中期計画(2016~2021年度の6年間)に加え「東京音楽大学ビジョン」を大学の基本的な目標と捉え、毎年度事業計画に反映させ、各種の施策を推進してきた。2021年度は、計画期間6年間の最終年であり、目標計画どおり順調に施策が推移しているかについて、自己点検・評価を実施するとともに、そのデータやエビデンスについて収集・確認を行った。さらに、改正私立学校法に係る文部科学省通知によると、中期的な計画は、教学、人事、施設、財務等に関する中期的視点で経営の計画を立てる必要があることや、その内容については抽象的な計画に留まらないこととされている。

本法人は、社会の変化に対応し、教育機関としての責任を果たすとともに、将来を見据えて建学の精神を実現し、今後も持続的に発展していくため、中期計画検討委員会を中心に設置学校及び法人運営に必要な諸施策を取りまとめ、第Ⅱ期中期計画(2022年度~2026年度の5年間)として、2022年2月25日評議員会・理事会の承認を受け策定した。本中期計画は、東京音楽大学においては、(1)内部質保証の推進、(2)教育の内部質保証、(3)学生募集、(4)東京音楽大学ビジョンの実現等を重要施策とし、付属高等学校・幼稚園については、(1)生徒・園児確保、(2)教育改革や教育力の向上、(3)各設置校・園のビジョン策定を重要施策としている。また、法人運営については、(1)法人経営に関する諸施策、(2)財務基盤確立に関する諸施策、(3)法令遵守等の一層の推進を重要施策として掲げている。

また、大学機関別認証評価システム(新基準項目)を視野に入れ、大学評価基準への適合にも対応させ、「内部質保証の充実」を目指すとともに、教育の内部質保証の課題に対して、学修者本位の観点から策定している。なお、第Ⅱ期中期計画は、学生・保護者及び社会一般など本法人のステークホル

ダーに対する社会的責任を果たすため、ホームページにより公表している。

(5) 東京音楽大学ビジョンの実現

2019年1月に策定した「東京音楽大学ビジョン」は本学の強みや特色を反映し、社会に対して説明責任を果たしていくものであり、「建学の精神」「教育目的」等を踏まえ、「東京音楽大学ビジョン」の達成を目指すことにより、現時点での「強み」の維持・強化に留まることなく、不断の取組みにより、新たな「強み」を持続的に生み出すこととなる。

2021年度においては、本学の基本的な目標である「東京音楽大学ビジョン」を達成するための施策として教育活動、研究活動、学生支援活動及び地域連携、社会貢献活動等を以下に掲げるとおり展開した。「東京音楽大学ビジョン」に定められているとおり、急激に変化する社会の様々な要請や期待に応えるため、現在明らかになっている課題について改革に取り組んだところである。

また、本学の第Ⅰ期中期計画については、2021年度を持って終了するところであり、第Ⅱ期中期計画(2022年度～2026年度)において、さらに「東京音楽大学ビジョン」を踏まえた、今後の成長戦略を具体的に明確にしたことで、「音楽文化の新たな地平を拓く」ための諸施策を推進することとしている。

(6) クリエイティブ・キャンパス構想の推進

2021年度は、「クリエイティブ・キャンパス構想」を実現するため、「池袋キャンパス総合整備計画(第1次～5次)」に基づき、次の事業を展開した。

① TCM学生寮

「池袋キャンパス総合整備計画」第2次に位置付けられた学生寮整備は、入学生のうち一都三県(東京隣接県)以外の者がおよそ4割という状況から、学生確保に不可欠として、現有の目白台学生寮と同規模の入寮定員124名のものを、2020年11月に解体したK館跡地に、鉄筋コンクリート造5階 2,255.73㎡の施設が2022年2月末に完成した(建設工事費、設計監理費、解体整備費、家具、セキュリティ等の他、関連工事を含め 総額1,343百万円)。施設完成後、「TCM学生寮」と命名し、2022年4月からの学生・生徒の受入の準備をした。

② 付属図書館・C館改修整備基本計画

○「池袋キャンパス総合整備計画(第1次～5次)」の第4・5次と位置付けた付属図書館とC館の改修整備は、基本計画をコンサルタントに委託し2021年10月に報告を受け、これを踏まえ、2021年12月理事会において、耐震診断基準に基づく安全性強化、関係設置基準等の順守、経年劣化対応等を進めることが了承された。

○上記の基本計画において、2023年度に付属図書館、2034年度にC館の改修整備を予定していることから、耐震診断調査業務と、実施設計業務にかかる業者選定を行い、委託先業者を2022年2月に特定した。

○文部科学省は、次年度(令和4年度)以降の耐震補強補助金申請には、「私立学校施設の耐震化等防災機能強化について」(2文科高第933号)において、「耐震化年次計画」公表を条件としていることから、上記の基本計画等に基づき、2022年3月に、ホームページにおいて公表した。

3. 中期目標・中期計画及び事業計画に関する活動等

2020年4月1日施行の改正私立学校法により、学校法人は、「自主的にその運営基盤の強化を図るとともに、その設置する私立学校の教育の質の向上及び運営の透明性の確保を図るように努めなければならない（第24条）」と新たに法人としての責務が規定されるとともに、「事業に関する中期的な計画の作成（第45条の2第2項）」が義務付けられた。また事業計画についても「毎会計年度、予算及び事業計画を作成しなければならない（私立学校法第45条の2第1項）」と規定化されており、同条第3項の規定に従い認証評価の結果を踏まえた中期的な計画、事業計画の策定が求められている。

また、学校法人にとって自己点検・評価が「自らの大学の質の保証」であるとするれば、認証評価は「自己点検・評価の質の保証」である。今回の法改正により、中期計画を中心に「事業計画」、「事業報告」、「自己点検・評価」及び「認証評価」の全てを関連させるPDCAマネジメント・サイクルの確実な実施が求められることとなった。さらに、私立学校法施行規則改正（第4条の4第4項新設）により、「事業報告書」については、「学校法人の状況に関する重要な事項」をその内容とすることが規定化されるとともに、2021年2月3日付で文部科学省高等教育局より、「学校教育法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備及び経過措置に関する政令等の施行について」（2文科高第994号）が通知され、事業報告書の参考例が示された。その中で、中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況の項目が明示されたことから、本学においても、この参考例に従い中期目標・中期計画及び事業計画に関する活動等を中心に、以下のとおり報告する。

3-1. 東京音楽大学

(1) 教育活動

① カリキュラム改革

2021年度においては、教養科目、外国語科目及び2023年度が完成年度となる音楽文化教育専攻、2022年度が完成年度となる吹奏楽アカデミー専攻に係る複数のカリキュラム改革についての検討を行った。また、教養教育に関しては、「教養教育の再構築・英語教育の充実に係わるカリキュラム改正についての基本計画」としてまとめられた。すなわち、(1)東京音楽大学の教養教育の在り方、(2)本学独自の共通基礎教育体系、(3)共通基礎教育体系の具体的構成、(4)最低修得単位数、(5)効果的な教育手法の導入、(6)全学体制での取組み、(7)輩出する人材像、ディプロマ・ポリシー等の改訂について整理を行った。

また、2022年度教養新科目(メディア論、キャリアデザイン)開設に係る検討を行うとともに、大学での学びをスタートするにあたり、基本的なアカデミック・スキルを身につけるための新入生向け教養演習の在り方について検討を実施した。

○ 検討内容の概要

- (1) 教養教育における少人数演習科目を1年次に開設。アクティブラーニング方式の授業。情報リテラシー、クリティカルシンキング、ディスカッション、プレゼンテーション等、アカデミック・スキル等に関する検討。
- (2) より高度な演習授業の設定及び(1)の演習科目の発展科目(2年次以降)についての検討。
- (3) 自然科学、人文科学、社会科学のバランスに配慮した科目設定についての検討。
- (4) 必修単位数の見直しについての検討。
- (5) 外国語科目の構成の見直し(必修は英語(2単位)と最低限とする一方で、意欲のある学生のための中上級科目を充実)についての検討。
- (6) 教学マネジメントの確立(授業内容や成績判定基準の共通化を図る。教員FD、教学IRの強化、教学マネジ

メントのシステム)についての検討。

(7)科目分類の見直し(現状8種類ある科目分類を統合整理)についての検討。

上記のうち、(1)については、以下のように設定することとなった。

- ・2023年度開始、1年次春学期全学生必修の演習科目の設定。
- ・既存の「教養演習」を再編。
- ・最大12クラスを開設。担当教員がそれぞれ個別のテーマを設定。履修生が演習を通じて、アカデミック・スキルを修得することを目指す。
- ・教員については、教養科目、外国語科目、教職科目を担当する教員、さらには場合によっては実技系科目担当教員も協力。

②英語コミュニケーションの見直し

共通教育推進センター会議において、英語コミュニケーションの見直しが検討され、以下のような改善を行った。

- ・定期試験において、試験内容が各クラスで別々になっていたが、2021年度は同レベルのクラスでは共通の問題を出題した。
- ・教員間のコミュニケーション不足を解消するため、共通教育推進センター会議のバックアップの下、まとめ役の教員を指名した。本教員が共通教育推進センター会議に参加することでスムーズな改善に繋がった。
- ・利用している教科書のレベルが高すぎるものが指摘され、1年次の教科書として他音大が発行している音楽に特化した英語教科書を導入することとした。

③教育改善FDの推進

2021年度ファカルティ・ディベロップメント(以下、FD)委員会は、4回開催し、以下の活動を実施した。なお、各種調査については、新型コロナウイルス感染症対策として、教学支援システムを利用して実施したところ回答率の低さが課題となった。次年度において、各種調査の実施方法についても検討する。

- ・2020年度授業アンケート・学修行動調査結果をVIVOで公開
- ・2021年度授業アンケート(対象:レッスン科目)を実施
- ・FD研修会の実施(2022年1月7日 テーマ:シラバスについて)

④教職課程の充実

介護等体験については、2020年度に引き続き、特例的に行う代替措置(文部科学省)に基づき、全学生が訪問体験を実施せず、レポート提出での実施となった。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、教育実習が実施できなくなった場合に、教育実習の科目の総授業時間数の全部又は一部を大学等が行う授業により行うことができるとする教育実習特例措置(文部科学省)の対象者6名に対して授業のほか、本学付属高等学校や他施設でのボランティア活動を実施した。

○介護等体験者数

- ・訪問体験 0名

- ・代替措置（レポート） 143名

○教育実習者数

- ・通常実施 179名
- ・特例措置 6名

○教員免許状授与件数

- ・中学校教諭一種免許状 164件
- ・高等学校教諭一種免許状 177件
- ・中学校教諭専修免許状 31件
- ・高等学校教諭専修免許状 32件

○教員採用試験特別講座及び教員採用者数

教育現場での実務経験豊富な本学教員による教員採用試験特別講座については、コロナ禍の影響もあり、夏期休暇期間中に1回開催することができた。2022年3月31日時点で判明している新卒採用者数は、専任18人、期限付き・臨時・非常勤採用15人である。

○明星大学通信教育部との教育業務提携(小学校教諭2種免許状取得講座)

本学在学中に明星大学通信教育部科目等履修生として小学校教諭2種免許状の取得を目指す制度について、2018年度入学の4年生では8名が履修し、5名が卒業後に免許を取得する見込みである。

2022年度は2年生6人、3年生7人、4年生1人が同制度を履修予定である。

⑤演奏能力向上教育

本学主催演奏会8件（卒業演奏会、シンフォニックウインドアンサンブル定期・特別演奏会、ソロ・室内楽定期演奏会、ピアノ演奏会、弦楽アンサンブル演奏会、オーケストラ定期演奏会）を開催した。公演は演奏者、関係スタッフのワクチン接種状況調査及び抗原検査実施及び状況調査を行い、客席側は座席数を減らしての実施から、通常の制限なしに戻す等、社会情勢も鑑み対応してきた。一般の方々に広く公演を楽しんでいただくために、可能なものについては配信も実施した。

○本学主催演奏会

演奏会名 配信 URL	日時	場所	入場者数/客席数
卒業演奏会 https://www.youtube.com/watch?v=uLaxmaia7-U	4月7日(水) 18:00開演	東京文化会館 小ホール	229名/649席※
シンフォニックウインドアンサンブル特別演奏会 配信なし	7月13日(水) 18:00開演	神奈川県民ホール 大ホール	598名/2,433席※
シンフォニックウインドアンサンブル 第52回 定期演奏会 未配信	7月14日(水) 18:00開演	東京芸術劇場 コンサートホール	716名/1,999席※

ピアノ演奏会～ピアノ演奏家コース成績優秀者による～ https://www.youtube.com/watch?v=jkJ-np0hFh8&t=138s https://www.youtube.com/watch?v=dKc5xeXMYTE&t=2580s https://www.youtube.com/watch?v=dKc5xeXMYTE&t=2580s	7月29日(木) 第Ⅰ部 13:00 開演 第Ⅱ部 15:30 開演 第Ⅲ部 18:15 開演	東京文化会館 小ホール	163名/649席※ 145名/649席※ 178名/649席※
学内オーディション合格者による ソロ・室内楽定期演奏会 未配信	9月19日(日) 13:00 開演	本学 TCM ホール	120名/422席※
東京音楽大学コンクール優勝者 コンサート https://www.youtube.com/watch?v=CRs7mP-R_sA	10月17日(日) 14:00 開演	本学 TCM ホール	123名/422席※
弦楽アンサンブル 第31回 演奏会 https://www.youtube.com/watch?v=ETjnIU4jyFo&t=15s	10月24日(日) 14:00 開演	本学 TCM ホール	132名/422席※
学内「第九」演奏会 https://www.youtube.com/watch?v=Sm2HAPiR4ZE&t=9s	11月23日(火・祝) 14:00 開演	本学 A 館 100 周年 記念ホール	265名/806席※
シンフォニーオーケストラ 定期演奏会 https://www.youtube.com/watch?v=Au8mWdBA_9Y	12月14日(火) 18:30 開演	東京芸術劇場 コンサートホール	921名/1,999席*

※のついた演奏会は感染症対策として客席数を40%以下に減らし、実施した。

*のついた演奏会は一部の客席数の制限を解除し、実施した。

○教員コンサート

演奏会名 配信 URL	日時	場所	入場者数/客席数
第12回声楽教員によるコンサート https://www.youtube.com/watch?v=dgV7Deccef0	9月25日(土) 17:00 開演	本学 A 館 100 周年 記念ホール	243名/806席※
第14回ピアノ教員によるコンサート https://www.youtube.com/watch?v=ErFPLTvQr4Q&t=551s	10月2日(土) 17:00 開演	本学 TCM ホール	123名/422席※
ピアノ教員による Collaborative Piano Concert ～チェロ・ソナタとイタリア近代歌曲 のタペ～ https://www.youtube.com/watch?v=BZWAHs3F91A	10月9日(土) 17:00 開演	本学 TCM ホール	121名/422席※

○その他の演奏会等

演奏会・イベント名	日時	場所	出演
オープンキャンパス 在学生によるウェルカムコンサート	2021年12月24日(金)	本学 TCM ホール	声楽、ピアノ、ヴァイオリン、打楽器ソロ、木管五重奏

○第20回 東京音楽大学コンクール

東京音楽大学コンクールは、学生の演奏意欲と演奏技術・表現力の向上を目的とし、入賞者を各々の演奏会によって広く世に紹介し、楽壇への登場を促すこととしている。

コロナ禍で演奏会は中止や延期とされる例が多い中、本コンクールは学生の演奏能力の向上に資する上で重要であることから、感染予防対策を万全のうえ実施した。2021年度は、弦楽器部門と管打楽器部門を対象として実施し、それぞれの部門で5人の入賞者を選び、第1位～3位に賞金と賞状、また入選者には賞状を授与した。

部門	日時	場所	出場者(結果)
弦楽器部門・予選	11月4日(木) 10:30開始	本学 TCM ホール	13名 (応募15名、失格0名、棄権2名)
弦楽器部門・本選	11月10日(水) 16:00開始	本学 TCM ホール	5名 (第1位～3位各1名、入選2名)
管打楽器部門・予選	11月6日(土) 10:00開始	本学 TCM ホール	25名 (応募30名、失格3名、棄権1名)
管打楽器部門・本選	11月11日(木) 16:00開始	本学 TCM ホール	5名 (第1位～3位各1名、入選2名)

⑥大学間単位互換制度及び高大連携の推進

本学は、2020年11月16日に、放送大学と単位互換に関する協定を締結した。本協定は、多様化している学生の将来の進路選択や就職の状況に鑑み、単科大学の枠を超え幅広く柔軟な教育プログラムを提供することを目的としている。2021年4月以降、放送大学で修得した単位は、卒業要件単位として認定した。

- ・放送大学派遣学生数：6名・16単位

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止されていた、上智大学及び聖心女子大学との単位互換制度は2年ぶりに再開した。

- ・上智大学受入学生数：18名・104単位
- ・上智大学派遣学生数：40名・95単位
- ・聖心女子大学受入学生数：5名・18単位
- ・聖心女子大学派遣学生数：4名・10単位

また、クラーク記念国際高等学校との高大連携授業については、例年通り声楽専攻の授業科目「ヴォイストレーニング」を対面で実施し、33名が受講、31名が単位を取得した。

(2) 研究活動

①競争的資金獲得の推進

本学においては、競争的資金の獲得拡大に向けた取組みを推進している。競争的資金の獲得を促進するため、継続的に競争的資金情報の迅速な把握及び学内への提供を行った結果、2021年度においては、科学研究費助成事業へ4件、文化庁「大学における文化芸術推進事業」へ1件、一般財団法人カワイサウンド技術・音楽振興財団等民間助成事業へ2件、応募申請を行った。2021年度の科学研究費助成事業の状況については、次のとおり。

2021年度科学研究費助成事業

○研究代表者分

研究期間	研究種目	研究代表者	研究課題
2021～2023年度	基盤研究 (C)	下道 郁子 (准教授)	明治・大正期の旧制高等学校の応援歌の研究—集団歌唱の受容と変容
2021～2024年度	基盤研究 (C)	太田 暁子 (講師)	女流義太夫に関する音楽学的基礎研究
2020～2022年度	基盤研究 (C)	金城 厚 (教授)	琉球王国の儀礼芸能の再現に関する芸能史的研究
2020～2023年度	基盤研究 (C)	藤田 茂 (教授)	現代音楽のフォルムの想像力：メシアン・デュティユー・ブーレーズの言説と草稿の検証
2020～2023年度	若手研究	早坂 牧子 (講師)	三浦環の歌：録音と演奏評分析による20世紀初期日本人声楽家の歌唱スタイル考察
2018～2021年度	基盤研究 (C)	小日向 英俊 (客員教授)	在日インド系コミュニティの音楽とその動態
2018～2021年度	基盤研究 (C)	武石 みどり (教授)	明治～昭和初期の洋楽受容の諸相—演奏の場・人・曲目・ジャンル・メディア
2017～2021年度	若手研究 (B)	福田 裕美 (准教授)	民俗芸能公演をめぐるアートマネジメントの基礎的研究—伝承と創造の観点から

○研究分担者分

研究期間	研究種目	研究分担者	研究課題	研究代表機関
2021～2025年度	基盤研究 (B)	千葉 伸彦 (講師)	機械学習による録音データ分析に基づく民俗音楽歌唱の歌唱方法の解明および復元	北海道医療大学リハビリテーション科学部 榎原健一准教授
2021～2024年度	国際共同研究 強化 (B)	加藤 富美子 (客員教授)	ヘリテージ・エデュケーション教員養成プログラムの日本・ブータン共同開発	新潟大学 人文社会学系 伊野義博フェロー
2019～2022年度	基盤研究 (B)	小日向 英俊 (客員教授)	独立後のインド音楽世界を文化資源化する知の統合研究	京都教育大学教育学部 田中多佳子教授

2018～2022年 度	基盤研究 (B)	渡辺 裕 (教授)	20世紀前半のヴァイオリン演奏様式の包括的研究 —野澤コレクションを活用して—	東京藝術大学音楽学部 大角欣矢教授
2018～2022年 度	基盤研究 (B)	鈴木 信五 (客員教授)	ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト・モダリティ・エビデンス・シャリティの対照研究	九州大学大学院言語文化研究院 山村ひろみ教授
2018～2021年 度	基盤研究 (C)	加藤 富美子 (客員教授)	日本伝統音楽と民族音楽を位置付けた学習理論構築と実践開発 —小泉文夫の理論を軸に—	広島大学大学院教育学研究科 権藤敦子教授
2018～2021年 度	基盤研究 (C)	荒尾 岳児 (准教授)	教師教育における美的教育プログラム —協同表現の教育の授業構成—	東洋大学文学部 桂直美教授

②文化庁「大学における文化芸術推進事業」

文化庁の実施する「大学における文化芸術推進事業」は、大学の有する教員、教育研究機能、施設・資料等の資源を積極的に活用したアートマネジメント（文化芸術経営）人材の養成プログラムの開発・実施を補助し、開発されたプログラムを広く他大学等に周知・普及させることで、我が国の文化芸術の振興を図ることを目的としている。

本学からは、「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成～「伝統×伝統」、「伝統×現代」、「伝統×地域」のクロスオーバーによる新たな価値の創出を目指して～」の令和3年度事業分として申請し、2021年3月15日付で「採択」された。

令和3年度は、「伝統×地域」をテーマに、各地域の民俗芸能等や住民の音楽活動の状況を踏まえた公演等を企画・運営するためのアートマネジメント人材育成プログラム開発を目的として、本学附属民族音楽研究所を事業推進母体に、関係機関と連携を図りながら、次のとおり事業を展開した。

文化庁「令和3年度 大学における文化芸術推進事業」

企画	実施内容
活動①「日本とアジアの伝統音楽・芸能の地域における展開に向けた事例調査と発信・共有」	「伝統×地域」をテーマとし、地域を拠点に日本とアジアの音楽・芸能について企画・運営するためのマネジメント人材育成プログラムとして、地域拠点の事例調査を実施した。全国の公立文化施設へのアンケート調査等とおして、多様な地域の文化的土壌において展開される取り組み事例を調査した。その結果を公開報告会と後述するプラットフォームにおいて公開し、あわせて意見交換をする場を設けることにより、地域レガシーの再発見と地域アイデンティティの創出を目指した。
活動②「日本とアジアの伝統音楽・芸能のため	日本とアジアの音楽・芸能アートマネジメントに係る最新の情報の発信のみならず、本学附属民族音楽研究所が有する資料等も含めたデータベース機能、サイト

のアートマネジメントプラットフォーム」の構築]	上で基礎的な知識や展開事例・ノウハウを学ぶことができる学習機能、会員登録者同士が情報交換を行う交流機能を兼ね備えたプラットフォームを構築し、公開した。
活動③「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブックの作成」	<p>2019年度～2020年度の基礎講座および実践セミナーと企画制作研修の内容を中心に、一部新たに執筆依頼をし、政策や法制度、支援機関、ファンドレイジング、多様に広がる活動の実践例、コーディネーターの役割やネットワーク構築の可能性等を「第1部 伝統音楽・芸能のマネジメントの概要」「第2部 多様な発信と場の広がり」「第3部 コーディネーターの役割、ネットワークの構築」にまとめ、冊子体とWEB公開の2種類の方法により広く周知した。</p> <p>※交付決定通知額</p> <p>令和3年度：23,400,000円</p> <p>令和2年度：18,000,000円</p> <p>令和元年度：19,000,000円</p>

また、2022年度以降の本事業については、「伝承を担うフィールドからまなび、ともに作り、地域へつなぐアートマネジメント人材育成—伝統音楽・芸能の地域レガシーによる新たな価値創出を目指して—」（2022年度～2024年度）を申請し、2022年3月10日付で採択された(令和4年度内示額19,300,000円)。

新規事業は、伝統音楽・芸能について、伝承を担うフィールド(現場)との関係性のうえにアートマネジメントの方法論を構築することを主たるテーマに、音楽・芸能の伝承をめぐる課題に対応し、且つ伝統音楽・芸能を地域レガシーと捉えて伝統を継承しつつ新たな価値や複眼的取組を創出できるアートマネジメント人材を育成することを目的としている。

2022年度は、Ⅰ「フィールドからまなぶ」とし、制作者が企画を立案・構成するにあたって伝承の現場に足を運ぶためのプログラムを開発し展開する。令和5年度は、Ⅱ「フィールドとともに作る」とし、伝承の現場から学んだことを活かしながら、伝統音楽・芸能と社会をつなぎ、伝承の未来につなぐことを視野に入れた企画制作の手法を検討し展開する。令和6年度は、Ⅲ「フィールドと地域をつなぐ」とし、伝統音楽・芸能を各地の地域レガシーと捉えつつ、まちづくり・むらづくりの中核に位置付け自治体等と協同で長期的視点から地域アイデンティティの共有を促すための方法論及び各地における多文化共生と包摂のための方法論を探求し構築することとしている。

③研究活動の活性化及び研究実施体制の強化

本学における研究活動の活性化及び研究実施体制の強化を目的として、令和2年度に次の規程を策定した。

- 「東京音楽大学における日本学術振興会特別研究員受入規程」
- 「東京音楽大学共同研究員受入規程」

共同研究員は、国内外の学術研究者又は学識経験者との交流を実践的に行うことによって、本学の学術の進展に寄与することを目的とするもので、2021年4月より4名の共同研究員受入れを実施し、本学所属の研究者として研究活動を実施するとともに、精力的に科研費等助成事業へ応募した。

④研究支援体制

科学研究費補助金等の競争的研究資金の獲得は、本学及び附属民族音楽研究所の評価向上に資することから、研究支援室の体制強化を図り、適切な運営・管理の下、公正で健全な研究環境の展開を図った。文部科学省による「研究機関における管理・監査等のガイドライン（実施要項）」が令和3年2月に改正されたことを受け、2021年度中は公的研究費取扱規程等の改正等、体制整備を行った。

- 「東京音楽大学における公的研究費の使用に関する行動規範」の改正
- 「東京音楽大学における公的研究費の不正使用防止に関する基本方針」の改正
- 「東京音楽大学における公的研究費取扱規程」の改正
- 「東京音楽大学公的研究費不正使用防止計画」の改正
- 「東京音楽大学における公的研究費の管理・監査の体制」の改正
- 「令和4年度公的研究費不正使用防止に係るコンプライアンス教育・啓発活動実施計画」の策定

なお、改正内容等は、研究不正防止ハンドブックに反映し、教職員への配付及び本学ホームページにて公開する。

(3) 学生支援活動

①新型コロナウイルス感染症に伴う対応

・緊急事態宣言期間中を含め、1年のうちほとんどの期間が実技を除く授業で遠隔対応となったことから、学生が来学する機会は多くはなかったが、「学内感染症ガイドライン」に沿って感染対策を講じ遠隔での対応を交えることにより、学内利用を可能にした。例えば学内での練習室・教室貸出では、入室できる人数や使用時間を、感染状況に応じ変更して対応した。特に学生寮内での感染対策については、最新の注意を払った。食堂のパーテーションの設置、寮入り口のアルコールおよび体温計の設置を実施するとともに、寮生会とも連携しつつ寮生のマスク着用促進を行った。さらに、感染者および濃厚接触者が発生した場合を想定し、別室を用意した。

・「学内感染症ガイドライン」については、関係省庁からの指示を基本とし、衛生委員会にて確認をとりながら、濃厚接触者の出校禁止基準等の対応基準を適宜更新した。

・9月から10月にかけて大学として実施した学外医院での職域接種では、学生への告知や日時の連絡から当日の誘導まで、学生が安心して接種できるよう協力・対応した。

・学生への経済的支援として、引き続き「東京音楽大学入学奨学金」「東京音楽大学家計急変奨学金」「遠隔授業環境整備奨学金」「新型コロナウイルス感染拡大に伴う家計急変者への授業料減免」を適切に実施した。

・2022年4月の新女子寮開寮に向け、在寮生の移動手続き対応、新入生の受け入れ準備、家具設備設置指示および寮則の改訂等に取り組んだ。

②学生支援活動の充実

○大規模自然災害被災学生支援

本学制定の「大規模自然災害罹災学生授業料減免に関する規程」に従い、台風19号(2019年10月発生)により実家が被災した学生(学士課程2名)に対して、新規申請に基づき面談を実施し、授業料減免の経済的支援を行った。2021年度の支援実績は以下の通り。

災害の名称	学部生	大学院生	合計
熊本地震	0人	0人	0人
西日本豪雨	0人	0人	0人
台風19号(2019年)	1人(半壊) 1人(全壊)	0人	2人

○経済的支援奨学金・授業料減免

(ア) 東京音楽大学入学奨学金

本学制定の「入学奨学金規程」に基づいて学生に公募をし、理事会審議を経て、出願者の中から学士課程2021年度新入生40名、修士課程2021年度新入生4名を選考し、入学奨学金を給付した。

(イ) 東京音楽大学家計急変者奨学金

本学制定の「家計急変者奨学金規程」に基づき、出願状況を理事会にて審議をし、規程の出願資格を満たす次の学生に対して家計急変者奨学金を給付した。

種類	学部生	修士課程	計
第Ⅰ区分相当	1	0	1
第Ⅱ区分相当	0	0	0
第Ⅲ区分相当	0	0	0

(ウ) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う家計急変者への授業料減免特例措置

本学制定の「新型コロナウイルス感染拡大に伴う家計急変者への令和3年度授業料減免の特例措置に関する規程」に基づいて学生に公募をし、理事会審議を経て、規程の申請資格を満たす学部生2名、修士課程学生1名に対して10万円の授業料減免を実施した。

○給付型奨学金制度の充実

学業成績が特に優秀な学生・生徒および音楽活動に極めて優秀な成績を修めた者を対象に奨学金制度を実施しており、2021年度は66名を奨学生として褒賞した。褒賞実績は次のとおり。

		奨学生数					計
		博士	修士	学部	高校	科目等履修生	
特別特待奨学生		1	0	4	4	4	13
給費奨学生	准特別	1	0	0	0	0	1
	甲種	3	9	29	0	0	41
給費入学奨学生	甲種	0	0	0	2	0	2

	乙種	0	0	0	1	0	1
特待奨学生	甲種	0	0	0	5	0	5
	乙種	0	0	0	3	0	3
計		5	9	33	15	4	66

○遠隔授業環境整備奨学金

2021年度においても、新型コロナウイルスの影響による遠隔授業及び遠隔レッスンの実施に伴い、学生の自宅のネットワーク環境整備にかかる費用負担を軽減するため、「遠隔授業環境整備奨学金」として学部および大学院新入生を対象に一律5万円を、科目等履修生の新入生を対象に一律1万円を給付した。

○高等教育修学支援新制度への対応

前年度からの継続者を含め、2021年度は86名の学生が本制度の対象となった。

○「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』

LINEによるオンライン申請システムを利用し、73名の学生を推薦した。

○学生支援体制の強化

(ア) 学生相談室

相談者数65名、延べ面談件数543件、連携活動25件、コンサルテーション件数4件であった。

- ・学生および保護者が学生相談室への理解を深められるよう、大学HPの改訂を行った。
- ・昨年度に引き続きオンラインでの面談を実施し、オンライン面談に特化した、情報漏洩防止のための説明書および同意書を導入した。

(イ) 医務室

中目黒・池袋両キャンパス医務室共に看護師1名ずつの体制とし、学生・教職員からの健康相談や健康診断の実施、新型コロナウイルス感染者・濃厚接触者等の対応等、関連する様々な問題に対して学生支援課と連携により早急に必要な支援に結び付ける対応を行った。

新型コロナ感染症対策ガイドラインの策定にあたっては医療情報の提供や、コロナ予防接種（職域接種）の実施に協力し対応していた。

- ・学生健康診断実施 受診者1,526人（受診率90.1%）
- ・コロナ感染症対策により入構制限中の学生に対し外部医療機関健診用の補助を実施。
- ・2021年度利用者数（電話メール等含む対応数）は、3,365件であった。

(ウ) 障がいを持つ学生の支援

障がい者支援委員会規程に則り、2件の申請に対応した。

(エ) 学生寮

新型コロナウイルス感染予防にかかわって、食堂パーテーションの設置、寮入り口のアルコールおよび体温計の設置、寮生会とも連携しつつ寮生のマスク着用促進を行った。また感染者および濃厚接触者が発生した場合のために、他の寮生と隔離するための別室を用意した。また、2022年4月の新女子寮開寮に向け、在寮生の移動手続き対応、新入生の受け入れ準備、家具設備設置指示および寮則の改訂等に取り組んだ。

○2021年度事業概要

事業名	時期	場所	事業内容
学生定期健康診断	4月	池袋	受診者1,526人(受診率90.1%)。
教室・練習室貸出および予約の管理	通年	中目黒・池袋	新型コロナウイルスの状況に応じて使用禁止や貸出の際の部屋割りや人数制限等を随時検討し適切な管理・運用を行った。
池袋キャンパス医務室 中目黒キャンパス医務室	通年	中目黒・池袋	両キャンパス担当および学生支援課員と情報交換・検討事項を協議、学生情報共有、緊急時の連携を検討・実行した。
池袋 学生相談室 中目黒 学生相談室	通年	中目黒・池袋	遠隔および対面により、2キャンパスにおいて学生面談を適正に行った。
学生委員会	通年	中目黒	前年度より引き続き、専攻内の学生のルールに関する問題について、専攻教員の協力のもと学生に指導した。
学生寮	通年	中目黒	寮内での感染予防対策について、寮生協力のもと感染防止策を講じた。2022年4月の新女子寮開寮に向け、在寮生の移動手続き対応、新入生の受け入れ準備、家具設備設置指示および寮則の改訂等に取り組んだ。
後援会助成金対応	通年	中目黒	後援会による各助成金制度(コンクール・校友会支部演奏会・演奏会支援)の申請受付・取纏め・役員会への申請を適切に行った。
奨学金委員会	通年	中目黒	奨学金委員会の開催およびそれに伴う事務作業を適切に行った。
日本学生支援機構 奨学金申請学生対応	通年	中目黒・池袋	遠隔授業が行われていたため、郵送や学生基幹システムからの連絡が中心となったが、学生および日本学生支援機構側との連絡・事務手続を適正に処理した。
外部特定財団からの 奨学生募集への対応	通年	中目黒・池袋	特定財団の奨学生募集に対し、公募・候補者選定・推薦状作成等に対応した。奨学金委員会における審議を経て公正な奨学生を選出し、各財団への申請を行った。
休学・退学を希望する学生への対応		中目黒・池袋	休学・退学希望者との面談において、理由の詳細を聞き取り、解決し得る問題点の有無を精査、問題解消への助言を行った。それでもなお本人の意思が強固な場合、休学・退学届用紙を手交した。

③キャリア支援

○一般就職希望者への支援強化

- ・10月より「業界研究会」として企業人事担当者による説明会を実施した。広く業界・企業研究ができるよう、幅広い業界より企業を選出した。学生が就職活動を本格化する前に企業の説明を聞くことができるため、業界研究の一つの機会となった。
- ・10月より、外部カウンセラーを置き、「面接体験」『「学生時代に力を入れたこと」の作成』『「自己PR作成」「集団面接練習」のグループ指導を展開した。学生が、他の学生も交えて対話を進めていく中で、就職活動で求められる視点に気づき、その後の個別の就職準備のきっかけとなった。
- ・7月より1年間の登録制で就職筆記対策eラーニングの利用を開始した。5回の模擬試験などを行い、筆記対策を自分のペースで、早くから取り組ませることができた。
- ・キャリア支援センター職員が大学職業指導研究会第2分科会に参加した。キャリアカウンセリングを行う上での課題を中心に他大学メンバーと意見交換・専門家への訪問を行うことで、より高度な視点で課題の解決法を得ることができた。

○多様な働き方・進路への支援強化

- ・将来フリーランスを考えている学生・卒業生に対し、「お金にクレッシェンド～音楽で生きていくためのお金の秘密～」講座を連続8回で開講した。確定申告の準備をはじめ、フリーランスで働くうえでどのようにして収入をあげるのか、といった経営的視点からの講座とした。
- ・学部3年次、修士1年次に全員面談を実施した。前年度は秋学期より取り組んだが、インターンシップへの関心の高まる5月より開始し、学生が具体的な進路を考えるきっかけとした。

○各専攻・教職課程等との連携

- ・自衛隊音楽隊説明会、二期会、日本オペラ振興会、カプコン(サウンドクリエイター採用)など、各専攻と採用や進学が強くかかわる団体の説明会を、専攻と協力の上実施した。
- ・2022年度より、正課から異動する「教員養成講座」を開設するにあたり、教職担当教員と調整し準備を行った。

○eラーニングシステムの導入

2021年7月より1年間の100名登録制で、就職筆記対策eラーニングの利用を開始した。いつでも、何度でも、スマートフォンからも利用可能で、演奏活動や授業に忙しい学生が、隙間時間で効果的に学習できるよう、活動が本格化する1年前から取り組めるようにした。また、SPI以外のCABや玉手箱の試験にも対応させ、代表的な採用筆記試験を網羅した。

○2021年度事業概要

事業名	実施時期	場所	事業内容
インターンシップ ガイダンス	5月	オンライン	全学年の学生を対象に、インターンシップの参加における心構え、準備等について説明した。参加学生数：57名

進路ガイダンス	5月・2月	オンライン	2023年度卒の学生を対象に、進路決定のためのスケジュールや、キャリア支援センターで開講する講座等の活用法を紹介。 5月参加者数（全学年対象）：67名 2月参加者数（3学年対象）：32名
学部3年・修士1年次全員面談	5～3月	キャリア支援センター またはオンライン	2023年度卒の学生を対象に、進路についての検討状況を面談において把握した。 対応人数：196名
音楽の可能性を考える	7月	オンライン	全学年の学生を対象に、音楽や音のつながりから考えられる業界・業種・職種について学ぶ講座を開講した。 参加人数：24名
業界研究会	10月～12月	オンライン	全学年の学生を対象に、幅広い業界の企業人事担当者に協力いただき、当該企業を例に業界や事業内容、職種について学ぶ機会とした。 参加企業数：18社、参加学生数：22名（のべ人数）
フリーランス支援講座	6月～1月	オンライン	卒業後フリーランスを希望する者を対象として、税理士による確定申告・フリーランス講座を開催。 参加者数：86名（8コマのべ人数）
先輩の就職を聞く会（内定者報告会）	1月	オンライン	学部3年次以下の学年を対象に、今年度進路が決定した学生による活動報告を聞き、学生の就職活動の参考とさせた。 参加者数：8名（計3回のべ人数）
個別カウンセリング	通年	キャリア支援センター	個別性の高い相談内容について、対面個別カウンセリングで対応。オンラインでの面談も可とした。 対応件数：652件
グループ指導	通年	キャリア支援センター	2023年卒の学生を対象に、「面談体験」「学生時代に力を入れたこと作成」、「志望理由作成」について、「集団面接練習」について、各回2～3のグループ指導を行った。 開催回数：計31回、参加者数：55名（のべ人数）
労働法セミナー	11月	オンライン	全学年を対象に、特定社会保険労務士によるアルバイトや就職で知っておくべき労働法の講座を開講した。 参加者数：7名

(4) 入試・広報活動

① 入試改革

○ 入学試験の見直し

2014年度より導入した総合型選抜試験の在り方については、学生の入学後の学力の状況や本

来の趣旨・目的に沿った学生の獲得がなされているか等について分析・検証した。2022年度入試において、総合型選抜の対象を拡大(新たに声楽・ピアノ)して実施した。

○入試業務のシステム化

前年度に引き続き、入試業務のシステム化を推進したところであり、非効率な個別業務について、改善に取り組んだ。実技試験スケジュール、採点簿、教員への依頼状、受験生への案内、掲示物、集計表、判定用資料等について、システム化を推進して効率的な運営を目指すものであり、実際の入試業務で活用しつつ、さらに改善・改修を行った。

○入学試験の実施

区分		実施日
総合型	音楽文化教育専攻総合型選抜	9月26日(日)
	器楽専攻優秀者総合型選抜(弦管打楽器)	11月3日(水・祝)
	ミュージック・リベラルアーツ専攻総合型選抜	11月3日(水・祝)
		11月27(土)-28日(日)
	吹奏楽アカデミー専攻総合型選抜	11月28日(日)
	器楽専攻 ピアノ・ピアノ演奏家コース総合型選抜	11月28日(日)
	声楽専攻総合型選抜	11月28日(日)
[秋学期入学者]	ミュージック・リベラルアーツ専攻総合型選抜	2月16日(水)-20日(日)
		3月20日(日)-21日(月・祝)
学校推薦型	学校推薦型選抜(指定校制)	11月28日(日)
	音楽文化教育専攻 学校推薦型選抜(公募制)	11月28日(日)
留学生		11月3日(水・祝) 11月26日(金)-28日(日)
一般	一般入学者選抜(A日程)	2月16日(水)-20日(日)
	一般入学者選抜(B日程)	3月20日(日)-21日(月・祝)
編転入学試験		2月16日(水)-20日(日)
大学院	大学院 音楽研究科音楽専攻 修士課程	11月18日(木)-20日(土)
	大学院 音楽研究科音楽専攻 科目等履修生	2月20日(日)-22日(火)
	大学院 音楽研究科音楽専攻 博士後期課程	2月20日(日)-22日(火)
共通テスト		1月15日(土)-16日(日)

②入試広報活動の充実

2021年度においては、音楽大学として入試広報の各取組みが学生の志望順位を高めることに対してどう影響を与えているかなどの有用性について検討し、(1)広報媒体を作成して受験生に届け

ること、(2)オープンキャンパスから受験講習会につなげること、(3)個別対応により受験に結び付けることを中心に広報活動の充実を図った。入試広報活動企画ごとの目的・意図を明確にし、事業実施後においては、受験生の満足度調査やその分析を実施した。

③戦略的広報の展開

2021年度においては、受験講習会を入試広報の最も重要な活動として位置付け、夏期受験講習会の初日に学校見学会とオンラインオープンキャンパスを同時開催した。受験生のアンケート結果からも高い満足度が得られたことが検証された。

○オープンキャンパス

ホームページ内に「受験生応援ページ」を作成して情報を発信し続けた。また8月から12月にかけてオンライン型のオープンキャンパスを4回実施し、Zoomによる双方向型のプログラムも組み込んだ。10月に来校型のオープンキャンパスを中目黒・代官山キャンパスと池袋キャンパスで同時開催し、当日の様子を映像を後日公開した。

○ホームページ

広報活動の中心をホームページとし、ホームページ内のコンテンツの充実を図った。また、大学院のページのリニューアルを行うとともに、操作性の向上を図った。

○SNS 活用の強化

ホームページへの誘導を図るため、SNS 活用の強化を図った。特に、本学の魅力的な活動を視覚的に広報することを目的に、Instagram の運用を開始した。

○2021 年度事業概要

事業名	実施時期	主な内容
大学案内（冊子）	6月発行	9,000部発行 主に受験生向けに学校紹介として活用。
ホームページ	通年	コンテンツの充実化を図った。インフォメーションの掲載件数は月平均25.5件。操作性の向上のために大学院のページをリニューアルした。情報公開ページの拡充更新も行った。年間改修作業は全体で31項目。
T C Mジャーナル（HP）	通年	ホームページ内で運営。年間全81本掲載。活気ある魅力的な教育活動や学生の声を中心に発信し、大学への理解者獲得とイメージの向上を目指した。
広報課掲示板（池袋A館）	通年	月1回程度の更新
Twitterの運営	通年	年間321回投稿。ホームページへの誘導を主目的とする。本学の理解者およびファンを獲得。2022年3月末でフォロワー数は2,300。
Instagramの運営	通年	視覚的なアピールを目的に2月に運用開始。2022年3月末のフォロワー数は400。

プレスリリース	通年	年間 7 回配信。社会に対して有益となる大学の取り組みをアピールした。
学校紹介ビデオほか動画	5月 通年	受験生向けに訴求力の高い動画をホームページで紹介。レッスン動画は受験講習会の希望担当講師選びにも役立つ。大学紹介ビデオは学校説明会や個別見学者などでわかりやすいと好評を得ている。
受験講習会	8月 12月	受験生募集のもっとも重要なイベントとして位置づけし全学をあげて取り組んだ。夏期受験講習会の初日に学校見学会とオンラインオープンキャンを同時開催。アンケート結果も良好だった。
オープンキャンパス	8月	夏期受験講習会の初日に実施した。オープンキャンパス参加者にとっての受験講習会期間中の同時開催は、受験講習会への参加意欲をブッシュする目的もある。
朝日新聞音大フェア	6月	朝日新聞社が企画する音大9大学合同の音大フェア。学校別のプレゼンテーションと個別相談で受験生に本学の魅力をアピールした。
広告出稿	通年	8 媒体（雑誌・書籍 2/コンクール・演奏会等プログラム 3)
看板掲出	7月	目黒区役所内案内板を継続中。
大学案内発送	通年	随時の資料請求による発送 959 件
外部からの取材対応	通年	テレビ 3 件/新聞 6 件/出版 4 件/WEB7 件/リーフレット 1 件/ラジオ 1 件
合格者アンケート	春	入学手続き時に実施。広報活動に生かす目的で実施。

(5) 国際化

① 国際交流活動

2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学生派遣等の国際的な交流はすべて中止となった。公開レッスン等については、以下のとおり。

事業名	内容
公開レッスン	○打楽器公開レッスン 宮崎泰二郎先生 4回(9月9日・10日、12月6日・7日) ○ヴァイオリン公開レッスン フェデリコ・アゴ스티ーニ氏 1回(11月29日)
オンラインレッスン	○ギルドホール音楽院とのオンラインレッスン ピアノ2名、声楽3名

(6) 地域連携・社会貢献活動

① 地域連携活動

〇としまコミュニティ大学講座等への支援

豊島区と豊島区内7大学(東京音楽大学・学習院大学・川村学園女子大学・女子栄養大学・大正大学・帝京平成大学・立教大学)が各大学の特色を活かした講座を開催し、学習の成果を地域につなげる事業を展開するものであり、学びを通じて人と人がつながり、地域へとつながり、活動へとつながり、生き生きとした地域づくりにつながる「学びの循環(わ)」の中で、地域(街・社会)文化の担い手づくりを目指している。本学は、豊島区との協働により生涯学習の充実を図り、地域社会に貢献することを目的とし、2021年度において以下のとおりの事業を実施した。

2021年度としまコミュニティ大学講座

講座会場	講座名	講師名	内容	開催日
池袋キャンパス 100周年記念ホール	インドネシアのジャワガムランの魅力	木村佳代講師 樋口なみ講師 針生すぐり講師	ゴングなどの青銅製打楽器を中心とした合奏音楽「ジャワガムラン」。その魅力を生演奏とともにわかりやすく紹介。	2021年 11月7日(日)
自由学園明日館講堂	メシアン 鳥の歌に魅せられた音楽家	藤田 茂教授	鳥の歌に魅せられ、鳥の歌を音楽に取り入れた20世紀フランスの作曲家、オリヴィエ・メシアンについて解説。	2021年 12月16日 (木)
池袋キャンパス A200教室	作曲家の仕事を知る劇伴作曲家って何?	堀井 勝美教授	テレビドラマ・映画・アニメ・幼児番組・CM・各種イベントなどの音楽制作過程で作曲家の仕事の進め方を具体的なエピソードを例に、紹介。	2022年 2月13日(日)

豊島区立南池袋小学校児童を対象とした吹奏楽演奏会(みないけコンサート)の実施

会場	公演名	指揮者	内容	開催日
池袋キャンパス Aホール	第20回みないけコンサート	外圍 祥一朗 教授	東京音楽大学シンフォニックウインド アンサンブル演奏	2021年 10月23日(土)

豊島区民ひろば回遊音楽キャラバン

会場	名称	出演者	内容	開催日
豊島区各区民ひろば	区民ひろば「回遊音楽キャラバン」	東京音楽大学の学生	豊島区の子ども達を対象に、質の高い音楽にふれることで、子どもたちの豊かな心を育むことを目的としている。	2021年 12月1日(水) 2022年 1月12日(水)

豊島区庁舎ランチタイムコンサート

会場	名称	出演者	内容	開催日
としま区民センター	庁舎ランチタイムコンサート	東京音楽大学の学生	公益財団法人としま未来文化財団／豊島区の協力のもと、演奏家を志す本学学生による様々な演奏プログラムを実施。	2021年 9月8日(水) 11月26日(金) 12月24日(金) 2022年 2月24日(木)

〇上目黒一丁目地区プロジェクトまちづくり計画の推進

本学は「中目黒・代官山キャンパス」の開校以来、東京都都市整備局及び目黒区より承認を受けた「上目黒一丁目地区プロジェクトまちづくり計画書」に定める誘導目標の実現に努めている。7つの誘導目標のうち、1. 緑の保全・確保やオープンスペースの創出、2. 景観への配慮、周辺環境との調和等、圧迫感のない施設画、3. 環境対策、省資源及び省エネルギーへの配慮、4. 地域に開かれた防災機能の確保、5. 周辺地域が育んできた歴史や文化への配慮、7. 二つのまちを結ぶ散歩道の形成の各項目については、日常の施設管理の徹底により、概ね目標を達成できたものと考えている。一方、6. 周辺地域のコミュニティの形成については、新型コロナウイルスの影響によりさまざまな連携行事・活動の中止を余儀なくされたことから、目標に照らして不十分な結果となった。

〇目黒区との連携講座（生涯学習講座）の実施、ワークショップへの参加

目黒区教育委員会は、区内大学等（東京音楽大学・東京大学・東京工業大学・放送大学・筑波大学付属駒場中・高）との連携により、教育機関の持つ専門的な知識・技術の集積を生かした生涯学習講座を実施している。本学は、中目黒・代官山キャンパスの開校を機に2018年度から、目黒区教育委員会との共催事業「目黒区連携講座（生涯学習講座）」を開講しており、地域の受講者から高評価を得ている。2021年度より、開講数を増やし（年1回→年2回）、目黒区における本学教育・研究成果の社会還元を推進した。目黒区との地域連携事業は以下のとおり。

東京音楽大学×目黒区教育委員会による「目黒区連携講座（生涯学習講座）」の実施

会場	講座名	講師名	内容	開催日
中目黒・代官山キャンパス TCMホール	「箏古典～現代」－ 二十五絃箏制作30 周年記念の年に－	滝田美智子客員 教授	箏の古典から現代まで、演奏を聴きながら奏法や曲調の変化を学習する。	2022年 1月23日(日)
中目黒・代官山キャンパス TCMホール	ポピュラー・ミュージックの20世紀	北中正和客員教授、大和田俊之慶応大学教授、難波弘之教授	多くの人を惹きつけるポピュラー・ミュージックの魅力とは何か？人類に何をもたらしたのか？共に考える。	2022年 3月27日(日)

目黒区「心にさくらプロジェクト」への参加

媒体	内容	実施期間
動画	目黒区と中目黒商店街連合会が協働し、新型コロナウイルスと最前線で戦う医療従事者の皆様をお弁当の無償提供で応援する取り組み「心にさくらプロジェクト」の趣旨に賛同。本学学生によるヴァイオリン演奏と応援メッセージを動画で提供した。	2021年 4月下旬～5月

目黒区「めぐろで第九 2020+1」への参加

会場	内容	開催日
めぐろパーシモンホール	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団主催の演奏会に、公募によって結成された区民合唱団と、本学合唱団が協同して参加。	2021年 6月20日(日)

東京五輪聖火リレーオリジナル・ファンファーレ制作受託及びウェルカムプログラムの映像提供

媒体	内容	開催日
動画	目黒区文化・スポーツ部より、東京五輪聖火リレーオリジナル・ファンファーレの制作を受託した。予定していた出発式での壮行演奏が中止になり、インターネットでのライブストリーミング配信用に演奏を動画で提供。	2021年 7月22日(木)

目黒区立中目黒小学校 120周年記念式典祝賀会への出演

会場	内容	開催日
中目黒小学校	中目黒小学校より、同校 120 周年記念式典祝賀会への出演依頼を受け、本学学生による弦楽四重奏で演奏出演。	2021年 12月4日(土)

○その他自治体等との連携

自治体等との連携により、音楽芸術分野に関する各種プロジェクト、演奏会等を継続して実施した。自治体等との連携事業は以下のとおり。

町田市と町田市文化・国際交流財団の共催音楽イベントへの参加

会場	内容	開催日
和光大学ポプリホール鶴川	町田市がホストタウンとなっているインドネシアの自然や伝統文化を、楽しみながら知ることができる音楽イベント「ガムラン×星空～きらめく響き～」で、東京音楽大学ジャワガムランオーケストラが演奏。	2021年 8月24日(火)

公益財団法人八王子市学園都市ふれあい財団の音楽フェスティバルへの協力

会場	内容	開催日
いちようホール 第1・第2展示室	今回の八王子音楽祭のテーマは、"世界の音楽"。 各国の民謡や楽器を通して、世界中の文化を体感できるイベント内の「世界の楽器展覧会」の監修を小日向英俊客員教授が務め付属民族音楽研究所の楽器の展示を行った。ウメトバエワ カリマン講師、東京音楽大学ジャワガムランオーケストラ+「ガムラン実習」授業履修生出演によるロビーコンサートも実施。	展示 2022年 3月24日(木)から27日(月) ロビーコンサート 2022年 3月24日(木) 3月26日(土)

公益財団法人日本建築士連合会審査の支援

会場	内容	開催日
中目黒・代官山 キャンパス	戸田建設との連携により、中目黒・代官山キャンパスの日本建築士連合会審査(審査員による現地確認)の実施を支援した。教育・文化・福祉系の建物 奨励賞を受賞。	2021年 8月3日(火)

②社会貢献活動

○社会人講座(指揮研修講座)の実施

2020年度より実施している東京音楽大学指揮研修講座は、「指揮にかかわる技術や知識を体系的かつ実践的に修得することを通して、創造性に満ちたリーダーを育てる東京音楽大学作曲指揮専攻の独創的な教育を、社会人などを対象に広く一般公開する」ことを目的としている。講座内容は、(1)指揮レッスンの受講(2台のピアノによる個人レッスンで、指揮技術と知識に関して体系的な指導を受ける)、(2)指揮マスタークラスへの参加(指揮専攻学生が実際にオーケストラを指揮するマスタークラスに参加することができる。音楽を媒介として、人生における様々な「学び」も得ることができる)となっており、2021年度も前年度同様、多くの受講者に受講していただき、社会貢献を果たすことができた。

○演奏会の開催

外部団体主催の依頼演奏会では、中止、延期が多いなか、区主催の万全なる感染対策のもと実施されているものもあるが、オリンピック関連は、本番の直前まで実施を予定したが中止となった。ミニコンサートでは、対象が幼児や高齢者の場合や、演奏者との距離がとれない演奏会については、中止をせざるを得ないものもあった。合唱団においては、毎年恒例となっている日本フィルハーモニー交響楽団との『第九演奏会』では、例年100名以上で演奏しているところ、専攻生40名でマスク着用、ソーシャルディスタンス等の感染予防対策徹底により、開催することが可能となった。

外部団体からの出演依頼による演奏会（管弦楽・吹奏楽・合唱）

演奏会名（主催）	日時	場所	出演
第 368 回横浜定期演奏会 第 392 回名曲コンサート (日本フィルハーモニー交響楽団)	5月21日(金) 19:00 開演 5月23日(日) 14:00 開演 【曲目変更により共演なし】	ミューザ川崎 シンフォニーホール サントリーホール	合唱団(日本フィルハーモニー交響楽団)
めぐろで第九 2020+1 (目黒区芸術文化振興財団)	6月20日(日) 15:00 開演	めぐろパーシモン ホール 大ホール	合唱団(日本フィルハーモニー交響楽団)
東京音楽大学が奏でる癒しの森コンサート (癒しの森コンサート実行委員会)	9月12日(日) 13:30 開演【中止】	長野県信濃町立 総合体育館	シンフォニーオーケストラ
マエストロの白熱教室 2021 指揮者・広上 淳一の音楽道場 (フィリアホール)	10月10日(日) 13:00 開演	フィリアホール (横浜市青葉区民センター)	指揮学生、有志 学生オーケストラ
第 20 回みないけコンサート (豊島区立南池袋小学校)	10月23日(土) 9:45/11:00 開演	本学 A 館 100 周年 記念ホール	シンフォニックウ インドアンサンブル
第 12 回 音楽大学オーケストラフェスティバル (音楽大学オーケストラフェスティバル実行委員会)	11月27日(土) 15:00 開演	東京芸術劇場 コンサートホール	シンフォニーオーケストラ (共演大学:東京藝術大学、昭和音楽大学)
第 7 回 こどもの夢ひろば「ボレロ」	11月27日(土) 11月28日(日) 11:15 / 15:00 開演	日立システムズホ ール仙台 コンサ ートホール	オーケストラ選抜 メンバー
日本フィルハーモニー交響楽団 「第九」交響曲演奏会 (日本フィルハーモニー交響楽団)	12月15日(水) 19:00 開演 12月21日(火) 19:00 開演 12月22日(水) 19:00 開演 12月25日(土) 14:00 開演	ミューザ川崎 シンフォニーホ ール サントリーホール 東京芸術劇場 コンサートホール 杉並公会堂	合唱団(日本フィ ルハーモニー交響 楽団)
第 11 回 音楽大学フェスティバルオーケストラ (音楽大学オーケストラフェスティバル実行委員会)	2022年3月26日(土) 2022年3月27日(日) 15:00 開演	ミューザ川崎 シンフォニーホ ール 東京芸術劇場 コンサートホール	9 音楽大学選抜学 生

外部団体からの出演依頼による演奏会（アンサンブル・ソロ）

演奏会名（主催）	日時	場所	出演
第 43 回読売中部新人演奏会 (読売新聞社)	6月6日(日) 10:00 開演	ヤマハ名古屋ホ ール	ピアノ
2021 年ヤマハ管楽器新人演奏会 (ヤマハミュージックジャパン)	6月16日(水) 17:00 開演 6月17日(木) 17:00 開演 6月18日(金) 17:00 開演	ヤマハホール	クラリネット フルート トロンボーン

東京 2020 オリンピック聖火リレー豊島区壮行演奏 (豊島区)	7月18日(日) 【中止】	Hareza 池袋 中池袋公園	吹奏楽アカデミー 専攻生
東京 2020 オリンピック聖火リレー目黒区出発式 (目黒区)	7月22日(木・祝) 【中止・動画収録】	目黒区総合庁舎前 広場	金管十三重奏
第22回新人演奏会 (日本ピアノ調律師協会 関東支部)	5月8日(土) 17:00開演【延期】	東京文化会館 小ホール	ピアノ
	9月1日(水) 17:00開演 ※5月8日(土)から延期		
イケビズフェスタ2021 (指定管理者としまのちから)	11月23日(火・祝) 10:00 / 11:00 / 13:00開演	IKE・Biz としま 産業振興プラザ	サクソフォーン四重奏
目黒区中目黒小学校 創立120周年記念式典 (中目黒小学校)	12月4日(土) 10:40開始	中目黒小学校 体育館	弦楽四重奏
ARK HILLS CHRISTMAS 2021 クリスマスコンサート (森ビル株式会社)	12月25日(土) 10:00 / 11:00開演	アーク・カラヤン 広場	打楽器三重奏
東京音楽大学在学学生による ベーゼンドルファー・コンサート (ベーゼンドルファー東京)	2022年2月11日(金・祝) 13:30開演	ヤマハ銀座コンサ ートサロン	ピアノ
目黒警察署 交通安全週間イベント (目黒警察署)	2022年3月21日(月・祝) 【中止】	中目黒GTタワー前 広場	サクソフォーン四重奏
東京音楽大学表参道サロンコンサ ート (カワイ音楽振興会)	6月24日(木) 18:30開演	カワイ表参道 コンサートサロン 「パウゼ」	ピアノ
	10月21日(木) 18:30開演		
	12月23日(木) 18:30開演		
	2022年2月9日(木) 18:30開演		
北本市文化センターロビーコンサ ート (北本市文化センター)	7月15日(木) 14:30開演	北本市文化センタ ー ホール	ピアノ 声楽 打楽器三重奏
	9月30日(木) 【中止】		
	11月18日(木) 14:30開演		
豊島区庁舎ランチタイムコンサ ート (としま未来文化財団・豊島区)	9月8日(水) 12:00開演	としま区民センタ ー8階 多目的ホ ール	クラリネット五重奏 サクソフォーン四重奏 金管五重奏 ピアノ三重奏
	11月26日(金) 12:00開演		
	12月24日(金) 12:00開演		
	2022年2月24日(木) 12:00開演		
区民ひろば回遊音楽キャラバン (豊島区)	12月1日(水) 10:30開演	区民ひろば さくら 第二 区民ひろば 富士見台 区民ひろば 高松 区民ひろば 豊成	弦楽四重奏 打楽器三重奏 ピアノ ピアノ
	2022年1月12日(水) 10:30開演		
	2022年2月2日(水) 【中止】		
	2022年3月2日(水) 【中止】		

その他の演奏会

演奏会・イベント名	日時	場所	出演
オープンキャンパス 在学生によるウェルカムコンサート	2021年12月24日(金)	本学 TCMホール	声楽、ピアノ、ヴァイオリン、打楽器ソロ、木管五重奏

③産学連携の推進

自治体以外の企業・団体との連携を、受託事業のPRの強化によって推進した。自治体・教員・校友の紹介によるもののみならず、受託事業の受注を広く一般に募ることで、外部資金の獲得へとつなげることができた。

3-2. 付属教育研究組織

(1) 付属図書館

○新型コロナウイルス感染症に伴う対応

前年度に続き、新型コロナウイルス感染症の蔓延する中、感染予防対策に努めながら、学生の学びのサポートに工夫をこらした。前年度に比べるとレッスンや合奏などで登校する機会が増えたこともあり、図書館に来館する学生も増えたが、オンライン授業や、地方在住の学生、教員からの要望もあり、資料の郵送貸出、文献複写物の郵送などは継続、オンラインフォームによる問い合わせも前年度に近い件数があり、定着してきている。中目黒・代官山キャンパス開設から丸2年が過ぎ、資料の予約取り置きサービスに慣れた学生が増えたこともあり、接触機会を減らしつつ、貸出等を行っている。

○ウィズ・コロナ時代の図書館サービスの提供とリテラシー教育

前年度に続き、図書館内での接触機会を減らしつつ、十分な資料・情報にアクセスできるように、以下のサービスを提供した。

- ・本学学生・教員への資料の郵送貸出(送料は利用者負担)
- ・本学学生・教員への文献複写物の郵送
- ・システムでの取置き予約
- ・利用者登録のオンライン化
- ・オンライン・お問合せ・申込フォームによる利用者対応
- ・オンラインや電話によるレファレンス対応
- ・事前取置き予約資料の貸出対応
- ・オンライン図書館ガイダンス (YouTube 動画配信)
- ・オンラインデータベース、eBook、リモートアクセス方法の周知
- ・国立国会図書館デジタル化資料図書館送信資料の閲覧、複写対応

○両キャンパスでの資料等の図書館資源や施設を活用した学修活動活性化のための施策

図書館1階ロビーとクリエイティブラボ・StudyArea内等の各所に資料の展示スペースを設け、次のとおり様々な内容のテーマ展示を開催した。

展示内容	期間	場所
サン=サーンス没後 100 年 林檎の木が林檎を実らせるように	4月1日～7月19日	クリエイティブラボ Study Area 展示書架
「音大生の本棚 2021」 (新入生向けの書籍 880 点を開架)	4月1日～7月19日	付属図書館 1 階ロビー 展示書架
ファクシミリ版シリーズ ストラヴィンスキーのバレエ音楽『春の祭典』の スケッチ	4月1日～7月19日	クリエイティブラボ Study Area ショーケース
ファクシミリ版シリーズ 武満徹の『コロナ』	4月1日～7月19日	付属図書館 1 階ロビー ショーケース
没後 50 年ストラヴィンスキー三回転するカメレ オン 原始主義 新古典主義 十二音技法	7月20日～10月23日	クリエイティブラボ Study Area 展示書架
サン=サーンス没後 100 年 林檎の木が林檎を実らせるように	7月20日～10月23日	付属図書館 1 階ロビー 展示書架
ファクシミリ版シリーズ 武満徹の『コロナ』	7月20日～10月23日	クリエイティブラボ Study Area ショーケース
ファクシミリ版シリーズ ストラヴィンスキーのバレエ音楽『春の祭典』の スケッチ	7月20日～10月23日	付属図書館 1 階ロビー ショーケース
「続・音大生の本棚 2021」 (上級生向けの書籍 22 点を開架)	10月25日～1月31日	クリエイティブラボ Study Area 展示書架
没後 50 年ストラヴィンスキー三回転するカメレ オン 原始主義 新古典主義 十二音技法	10月25日～1月31日	付属図書館 1 階ロビー 展示書架
ファクシミリ版シリーズ サン=サーンスの『動物の謝肉祭』	10月25日～1月31日	クリエイティブラボ Study Area ショーケース
ファクシミリ版シリーズ ジョスカン・デ・プレのミサ曲『アヴェ・マリ ス・ステラ』	10月25日～1月31日	付属図書館 1 階ロビー ショーケース
ファクシミリ版シリーズ ジョスカン・デ・プレのミサ曲『アヴェ・マリ ス・ステラ』	2月1日～3月	クリエイティブラボ Study Area ショーケース
ファクシミリ版シリーズ クセナキスのバレエ曲『Kraanerg』	2月1日～3月	付属図書館 1 階ロビー ショーケース
没後 350 年ハインリヒ・シュッツ 射手座を名乗 った作曲家	2月1日～3月	クリエイティブラボ Study Area 展示書架
音楽・数学・建築 クセナキス生誕 100 年	2月1日～3月	付属図書館 1 階ロビー 展示書架

このほかに、1月15日「伊福部昭作品資料及び愛用ピアノ寄贈 感謝状贈呈式」会場でも、関連資料を展示した。施設貸出については、コロナ禍で活発な活動が制限されるなかで、限定的ながら、学生の学びに必要な貸出を行った。Lab1～5の小部屋は、一人一室使用に限って認め、キャンパス間移動が難しい場合のオンライン授業や、オンライン論文指導などに使う学生が目立った。また、ラボステージでは、授業の一環(Act Project)として、学生主催によるミニコンサートが2回開催された。

○積極的な学修支援の実施

学修サポーターと協同して、学修支援を実施。新学期のガイダンスのほか、修士課程1年を対象とした修士論文ガイダンス(9月、オンラインで実施)にも参加して、図書館の活用方法を案内した。また、外部講師を迎えてのライブラリーセミナーは、感染拡大の最中で実施を見送った。

【図書館：レファレンス件数と利用登録】

		所在調査	事項調査	利用指導	その他	合計	利用登録*
2021年度	カウンター対応	721件	6件	3,653件	854件	5,234件	70
	オンラインフォーム	31件	5件	95件	17件	148件	133
	合計	752件	11件	3,748件	871件	5,382件	203
2020年度	カウンター対応	358件	11件	2,738件	770件	3,877件	51
	オンラインフォーム	57件	6件	115件	7件	185件	152
	総計	415件	17件	2,853件	777件	4,062件	203

*利用登録は、教職員・卒業生によるもの

【学修サポーター：相談件数】週2日10時～17時 稼働日数：67日

- ・ 学修相談：修士論文のテーマ設定、文献探索・収集方法、先行研究の調査方法、プログラムノートの書き方、論文の構成に関すること等の相談等
- ・ クイックレファレンス：図書館所蔵資料の検索方法、データベースの使い方、音楽アプリの使い方、パソコン操作方法等の質問、施設利用方法等

年度	学修相談	クイックレファレンス	合計
2021年度	72件	8件	80件
2020年度	49件	22件	71件
2019年度	46件	40件	86件

○大学史関係資料や広く音楽界の実践・研究に寄与するコレクション等の収集・整備・公開

2021年度、作曲家で本学元学長・伊福部昭の作品資料等1200点余りから成る「伊福部昭コレクション」の受入を行った。寄贈のお披露目を兼ねて、寄贈者に感謝状をお渡しする「伊福部昭作品資料及び愛用ピアノ寄贈 感謝状贈呈式」実施に向け本学教員、演奏課などと協力して開催準備を進め、1月15日に開催した。伊福部昭作品をゆかりのピアノで、本学関係者が演奏した当日は、会場の都合もあって一般公開できなかったが、その録画を後日YouTubeチャンネルで

公開する。同コレクション、およびイベントに関するプレスリリースは、多くの関心を集め新聞、テレビ、雑誌などの取材が相次いだ。また同コレクションの今後の整理・公開のため、公益財団法人図書館振興財団に助成の申請を行い2022年度の助成対象に採択された。

○地域社会との連携

豊島区立図書館との相互協力は、例年通り、継続された。本学学生教職員には、本学図書館を窓口に関書の取り寄せをできる「としまねっと」の利用についてアナウンスし、利用されている。豊島区立図書館との相互協力に関する要綱に倣って目黒区立図書館とも同様の要綱を検討する予定であったが、感染症拡大の中で会合を持つことができなかった。引き続き連携し実現を目指す。このほか、ニッポニカ・アーカイヴの運用や、特別コレクションによる社会貢献を行っている。

ニッポニカ・アーカイヴ演奏譜貸出実績

公演日	演奏団体	会場	演奏曲
2021年9月20日	フライハイト交響楽団	すみだトリフォニーホール	伊福部昭《シンフォニア・タブカーラ》
2021年10月20日	広島交響楽団	三原市芸術文化センター ポポロ	伊福部昭《シンフォニア・タブカーラ》

○本学主催及び関連演奏会プログラムの整理とアーカイブサイト

昨年度、本学主催及び関係の演奏会プログラム及びチラシ(1965年度～2018年度)の整理、またそのデジタル画像(PDF)をキャンパス内ネットワーク経由で閲覧できるようにした。加えて、チラシ表面画像と簡単な演奏会情報を専用の演奏会アーカイブサイトにて公開している。

(<https://tokyo-ondai-lib.jp/program/>)

今年度は、2019年度実施の演奏会プログラム等73点を追加した。

○図書館の利用状況

2021年度は、授業はオンライン実施、レッスン、合奏などは対面での実施となった。前年度に比べて大学内に入構する人は増えたが、その頻度は完全対面実施の頃に比べると、まだ少ないのが実情である。池袋図書館の年間総入館者は2020年度比147%となったが、さらに前(コロナ禍前)の2019年度比は67%となっている。(中目黒・代官山キャンパスでの利用者は含まない)

図書館の利用状況

	開館日数	入館者数	
		総数	一日平均
2021年度	258日	22,279人	86人
2020年度	213日	15,160人	71人
2019年度	258日	33,079人	128人

○図書館耐震・改修工事に向けた検討

図書館の耐震・改修工事に向けて、状況把握と具体的なプラン作成のための相談、情報交換を行った。現在の蔵書数、本学図書館の特徴、独自のサービス、利用者の利便性の向上のために必要なこと、さらに今後実現したいことなどを洗い出した。その結果、図書館を含むBCE館改修整備基本計画報告書（10月）がまとめられた。これをうけて、耐震診断実施が決まり、3月末に調査が行われた。

○古本募金

学内外の方から寄せられた古本による寄付支援プロジェクトを2015年度から実施している。提携業者により、買取に至った点数は213点（¥27,243）に減少。同じ図書やCDに関わる立場として、細く長く継続したい。前年度同様、感染症の状況に鑑みて、学生選書ツアーの実施は見送った。

古本募金額

	買取冊数	寄付金額
2021年度	213	¥27,243
2020年度	598	¥16,123
2019年度	2,225	¥55,003

○本学主催及び関連演奏会プログラムの整理とアーカイブサイトの開設

本学主催及び関係の演奏会プログラム及びチラシ（1965年度～2018年度）、1000件以上の紙媒体としての整理、目録データ作成、物理的な保管に加え、チラシ及びプログラム全頁の画像データを図書館OPACの書誌情報詳細ページから、キャンパス内ネットワーク経由で閲覧できるようにした。加えて、チラシ表面画像と簡単な演奏会情報を専用の演奏会アーカイブサイトにて公開した。（<https://tokyo-ondai-lib.jp/program/Web>）公開されたアーカイブ・サイトでは、開催年度、主な出演者、演奏会タイトル等で検索ができ、また図書館OPACでは、公演日、主な出演者、演目等より詳細な条件で検索できる。

演奏会プログラムのアーカイブ化は、本学の歴史を知る上でも、また時代ごとの演奏会レポーターを確認する上でも、いずれ貴重な情報源となっていくものと確信し、今後も継続する。

○刊行物の発行と機関リポジトリ運用

研究紀要第45集（冊子）、大学院論文集第7巻（CD-ROM）1,2号を刊行し、掲載論文等全てを機関リポジトリにて公開した。博士学位論文のほか、博士共同研究報告書のリポジトリ公開も定着した。本学リポジトリの年間の閲覧数は21,224回、文献への直接アクセスを含むダウンロード回数は89,139回となっている。

○2021年度事業概要（その他）

事業名	実施時期	事業内容
感染症対策	通年	・クリエイティブラボオープンスペースにアクリルパーテーションを追加設置。

		<ul style="list-style-type: none"> ・クリエイティブラボオープンスペースに空気清浄機を設置（新規） ・感染症予防策広報ポスター掲示等 ・手指消毒液や除菌用ウェットティッシュと専用ゴミ箱等の設置 ・利用者スペースの家具の配置変えや座席数の間引き ・カウンター周り、検索台等のこまめな清拭 ・貸出機器等の清拭 ・入室者管理表の設置 ・入構、入館ルールの周知徹底
クリエイティブラボ カウンター業務拡大	通年	<p>開設当時は置いていなかった実用楽譜やミニチュアスコアを、書架スペースの制限の中で厳選し、クリエイティブラボのStudy Area に配架したことで、学生の利便性は増した。</p> <p>施設貸出は、コロナ禍で、活発な活動が制限されるなかで、学生の学びに必要な貸出を行った。Lab1～5 の小部屋は、一人一室使用に限り認め、キャンパス間移動が難しい場合のオンライン授業や、オンライン論文指導などに使う学生が目立った。</p>
授業と連携した図書館リテラシー・ガイダンスの実施と、文献情報探索や学修に役立つオンライン動画コンテンツの充実	課題提出は4月～5月 配信は通年	<p>1年生必修の西洋音楽史概論の授業と連携して、OPACの検索ガイダンス、館内ツアー等をオンラインで実施。課題提出もオンラインで実施した。対面で行うガイダンスに比べて、検索方法などの動画は一度だけでなく、何度も見なおすことができる点など、学生から好評を得ている。最終的に当初の履修予定者の87%が課題を提出、参加者の96%からガイダンス実施が「ためになった」という回答を得た。</p>
高大連携教育、高校生の図書館活用・学習支援を意識したサービス体制の強化	ガイダンス4月～6月 その他は通年	<p>新入生を対象とする図書館ガイダンス(オンライン)を実施。学年集会の時間を使って概要の説明する機会を得た。その後動画視聴と課題提出をオンラインで実施した。また、これまでに本格的なガイダンスを実施していなかった2,3年生についても、西洋音楽史担当教員の協力を得て実施した。</p> <p>最終的に1年～3年の79%が課題を提出、参加者の91%からガイダンス実施が「ためになった」という回答を得た。</p>
各種ライブラリーセミナーの効果的な実施方法の検討	通年	<p>外部講師を招いたライブラリーセミナーの開催を予定していたが、オンライン開催の技術的な問題、学外参加者をも対象としたオンライン開催時のセミナー参加料徴収方法など、困難な問題が多く、対面での開催が最適であると判断した。しかし、感染症の拡大が収まらず、オンライン授業が続く中での実施を見送った。次年度の開催をめざしたい。</p> <p>例年実施してきた、ライブラリーセミナーにかわって、1月15日に「伊福部昭作品資料及び愛用ピアノ寄贈 感謝状贈呈式」（演奏、展示を含む）を実施し、当日の様子の動画をYouTube配信する。</p>
SNS等での情報発信と、ホームページ、OPAC他、各種関	通年	<p>学生の学修、蔵書の広報のために、ホームページ等のウェブサイト、SNS等を活用して、情報発信を行った。</p> <p>図書館ホームページ</p>

連サイト内の情報更新・充実・管理運用		https://www.tokyo-ondai-lib.jp/ イベント広報ページ https://tokyo-ondai-lib.jp/event/ 図書館展示 https://tokyo-ondai-lib.jp/exhibition/ コレクションサイト https://tokyo-ondai-lib.jp/collection/ 図書館 Twitter @tcmlib
カレント資料及び特殊資料の収集と整理	通年	<p>本学の専門的な研究・学修に資する資料を、媒体に捉われず、適切に収集、整理を行った。</p> <p>大学史関連資料として、今井重幸コレクションの整理のほか、急きょ寄贈受入が決まった伊福部昭コレクションの受入に取り組んだ。</p> <p>着手予定であった過去の演奏会等のオープンリールテープの確認は諸般の事情により次年度以降の実施に変更した。</p>
研究室を含めた拡大蔵書点検	通年	<p>図書館の蔵書点検（8月）は例年通りの実施。加えて、研究室の蔵書点検を、7月～8月に集中的に、その後各研究室の都合に合わせて実施した。しかし、とくに学科系の教員は今年度もオンライン授業を続けているため登校日が限られ、教員立ち合いが必要な点検は難航した。点検対象全10,491点のうち、7,860点の点検を完了（全体の75%）。2022年度、2回目の蔵書点検を実施する。</p>
安全かつ適切な書庫及び蔵書管理の実施と改修を視野に入れた検討準備	通年	<p>老朽化した書庫から図書館の比較的安全な場所へ、資料の移動を行った。図書館の改修計画が具体化する中、外部倉庫保管資料、受入処理が終わっていない寄贈（候補）資料等の見直しを開始した。</p> <p>耐震・改修計画を進めるにあたって、必要な情報を把握し、提供し、また意見交換を行った。</p>
特別コレクションによる社会貢献	通年	<p>整理が完了、目録公開している貴重楽譜について、学外者から利用の問い合わせ、利用希望があり、所定の手続きを経て提供。当該資料を使用した演奏会プログラムや楽譜など成果物の寄贈を受けた。</p>
他図書館等と協力したマイクロフィルムのデジタル化	9月～3月	<p>かつて本学図書館が中心となつてすすめた雑誌『音楽新潮』マイクロフィルムのデジタル化に際して、音楽図書館協議会加盟館に呼び掛けを行い、入手を希望する図書館5館と協力して進めた。経費総額を6館で負担したため、本学の負担額は減り、あわせて利用者の利便性を高めることができた。</p>
ニッポニカ・アーカイヴの運用	通年	<p>アマチュアでありながら意欲的なプログラムで定評のある演奏団体、オーケストラ・ニッポニカより寄託されている、未出版の日本人作曲家による管弦楽作品の演奏譜を要望のある演奏団体へ貸し出すことを2014年度より実施している。名曲でありながらも演奏譜が出版されていないため、歴史に埋もれつつある日本人作曲家の管弦楽作品上演の関心は高</p>

		い。今年は、コロナ禍で公演中止、キャンセルとなったコンサートが多く、例年に比べて問い合わせは少なかった。 貸出実績：2件
--	--	---

(2) 付属民族音楽研究所

○研究活動概要

本研究所は、伝統的な音楽文化を継承しつつ新たな音楽文化を生み出す音楽実践、研究、教育を組織的に展開している。2020年度からは、特に研究機関として確固たる研究体制を構築することにより、アジア音楽に関する創造的な研究を推進し、アジア音楽の研究拠点として研究所のブランディング化をはかることを目指してきた。研究所の活動は大きく、「研究」「教育」「社会貢献」「社会連携」の4つに分けることができる。

「研究」としては、2021年度は以下の3つの事業を行なった。1点目は、本研究所にこれまで蓄積されてきた研究資料（文献、映像・音源）のデータベース化を行い、付属図書館と連携しながら、外部への公開に向けて作業を進めたことである。2点目は、本研究所が推進母体である「文化庁 大学における文化芸術推進事業 伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成」の3年目として以下の3つの活動を行ない、情報の集積と発信、相互交流の場をつくることをめざした点である。活動①「日本とアジアの伝統音楽・芸能の地域における展開に向けた事例調査と発信・共有」、活動②「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントプラットフォーム」の構築と活動③「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブック」の作成である。3点目としては、「東京音楽大学付属民族音楽研究所ハンドブック」の1冊として、ジャワガムラン・ジャワ舞踊の一般向け書籍の2022年度中の刊行に向けて、出版社を選定し刊行準備を進めたことである。

「社会貢献」としては、公開講座「南インドの音楽と楽器ーヴィーナーとムリダンガムー」、
「打弦楽器の歴史をたどって 聞いて見よう、見てみようピアノの源流」、「箏 古典から現代～アンサンブルを中心に～」のそれぞれに、いずれも多数の参会者を集めることができ、一般の方々が本学の公開講座に期待されている内容の広がりを知ることができた。「社会人ガムラン講座」では、長年にわたり本研究所が教育研究交流を進めてきたインドネシア国立芸術大学のジャワガムラン、ジャワ舞踊の教員たちの実演をオンラインならびに配信した「ガムランと舞踊のオンライン・チャーターコンサート」により、これからのガムラン・オンライン・ワークショップ事業に向けて第一歩を踏み出すことができた。

「社会連携」としては、本学と包括協定を結んでいる Bunkamura における「古代エジプト展」楽器展示、「八王子音楽祭 2021」における「世界の楽器展覧会」での民族音楽研究所所有の楽器60点の展示ならびにロビーコンサートの開催をあげることができる。楽器展示ではそれぞれの楽器の音源や映像を来館者のスマホにダウンロードしたアプリで視聴することができる画期的な展示の形をとり、来館者から大きな反響を得ることができた。

ガムラン関係では町田市のオリパラ企画の一環としての「ガムラン×星空～きらめく響き～」に招聘され映像と一体となった新しいコンサート形態を生み出すことができた。

このほか、豊島区との連携講座として「豊島コミュニティ大学」でのガムラン講座、目黒区と

の連携講座として「箏古典～現代—二十五絃箏制作 30 周年記念の年に」を TCM ホールで開催した。

○2021 年度事業概要

事業名	実施時期	場所	事業内容
研究資料（文献・映像・音源）のアーカイブ公開	通年	民族音楽研究所	文献・映像・音源の所蔵資料のデータベース化を行い、付属図書館と連携しながら、外部への公開に向けて作業を進めた。内外から検索して、来所利用できるようにする。
日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成～「伝統×伝統」、「伝統×現代」、「伝統×地域」のクロスオーバーによる新たな価値の創出を目指して～	通年	池袋キャンパス	3年間の集大成として「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントプラットフォーム」の構築と「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブック」の作成を行なった。「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントプラットフォーム」では、「みせる」、「おしえる」、「あつめる」、「しる」、「いかす」「きほん」に分けてコンテンツ化し、多様な層の受講生を想定し入り口をわかりやすくした。さらに、各地域の民俗芸能等や住民の音楽活動の状況を踏まえた公演等を企画・運営するためのアートマネジメント人材育成プログラムを開発した。 「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブック」は、1年目の「伝統×伝統」、2年目の「伝統×現代」における基礎講座・実践セミナー・企画制作研修のプログラム内容を踏まえ、更に新規トピックを加え、「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブック」として刊行した。
「民族音楽等社会人特別講座」	通年	民族音楽研究所 中目黒・池袋両キャンパス	社会人に向けて民族音楽等の実技と講義の両面から総合的理解を深める機会を提供した。年間 25 回の実技個人レッスン、年間 20 回の「世界音楽入門」の講義を、17 名の受講生が受講し、TCM ホールにて「修了発表会」を開催した。
「ガムラン講座(2 講座)」	通年	民族音楽研究所	ジャワガムラン 33 名、ジャワ舞踊 19 名の受講生を得て、オンラインと対面の講座を組み合わせながら講座の運営を行い、2022 年 2 月には 12 演目、3 時間に及ぶ「ガムラン講座

			発表会を250名の聴衆のもとAホールで開催した。
「公開講座」3講座	通年	民族音楽研究所	「南インドの音楽と楽器—ヴィーナーとムリダンガム—」(2022年1月18日(火)C305)、 「打弦楽器の歴史をたどって 聞いて見よう、見てみようピアノの源流」(2022年3月10日(木)TCMホール)、「箏古典から現代—アンサンブルを中心に—」(2022年3月18日(金)TCMホール)の3回の講座とも多数の参加者を得ることができ、本学の公開講座に期待されている内容の広がりを知ることができた。
東急文化村との連携による民族楽器展示及びレクチャーコンサートの開催	6月12日～27日	Bunkamura	Bunkamuraとの包括協定のもと、以下の楽器展示を行なった。 「古代エジプト展」楽器展示 2021年6月12日(土)～27日(日) 場所: Bunkamura 1F ロビー 展示楽器: ウード、ダラブッカ(2点)
「八王子音楽祭2021」における「世界の楽器展覧会」	3月24日～27日	八王子市「いちようホール」ロビー・展示室	「世界の楽器展覧会」として民族音楽研究所所蔵の楽器60点を、世界の地域別に展示し、2つのロビーコンサートを行なった。 1) 展示 2022年3月24日(木)～27日(日) 場所: 八王子いちようホール 第1・2展示室 2) ロビーコンサート 場所: 八王子いちようホール ロビー ・キルギスの楽器コムズ ・インドネシア・ジャワのガムラン
ISIのオンライン・チャーターコンサート	3月19日	インドネシア国立芸術大学スラカルタ校	「ガムランと舞踊のオンライン・チャーターコンサート」 日時: 2022年3月19日(土)20時～ 収録場所: インドネシア国立芸術大学 ISI Solo ※提携校 ISI Soloに授業や社会人講座の課題曲の参考動画を収録し、同時配信するとともにUstream配信した。
町田市オリパラ企画 ガムラン公演	8月24日	和光大学ポプリホール鶴川	「ガムラン×星空～きらめく響き～」 期日: 2021年8月24日(火) 11:00 14:00 会場: 和光大学ポプリホール鶴川 出演: 東京音楽大学ジャワガムランオーケストラ
目黒区・豊島区との連携講座	不定期	TCMホール他	豊島区との連携講座として「豊島コミュニティ大学」でのガムラン講座、目黒区との連携講座として「箏古典～現代—二十五絃箏制作30周年記念の年に」を開催した。
研究紀要『伝統と創造』Vol.11の刊行	3月	民族音楽研究所	研究紀要『伝統と創造』Vol.11を刊行した。

3-3. 付属学校等

(1) 付属高等学校

○事業概要

2021 年度も昨年度に引き続きオンライン授業と対面授業の併用により教育活動を展開した。昨年度、Google 社の Gsuite for Education を利用してプラットフォームを構築したことで、登校が困難な状況下であっても教員・生徒間の連絡やコミュニケーションに問題はなく、適切な学校運営を実施することができた。

今年度の演奏教育としての新たな試みとしては、チャリティーコンサートにおいて、従来の「ガラコンサート」から目的を明確にし、音楽を通してメッセージを伝えるものへと変更したところである。

入学者の状況については、昨年度同様に定員割れの状況が続いた。15 歳人口は、年々減少の状況が続いているところであるが、それ以上に音楽科を志望する生徒の減少は著しく、この現象は本校のみならず加速しているところである。2021 年度は、これらの問題を解決する糸口として、音楽総合コースに「セルフデザインクラス」を設置したところである。

○2021 年度事業概要

事業名	実施時期・場所	事業内容
チャリティーコンサート	11 月 30 日 東京芸術劇場	「美を求めた音楽家たち」 第一部 合唱／第二部 ソロ・室内楽／第三部 オーケストラ ／第四部 吹奏楽
セルフデザインクラス 新設	通年	2021 年度より音楽総合コースに「セルフデザインクラス」を 新設した。
WEB のリニューアル	通年	セキュリティに考慮し、WEB を再構築した。
校長対談	7 月～3 月 THUTAYA	カロリーネ・グルーバー/オペラ演出家/身体表現とメンタリテ ィーギャップ 石田勝紀/教育実業家/ビジョンと教育 山本豊津/美術家/アートの未来
イノベーションリーダ ーシップ講座	5 月～3 月 J スタジオ	#1. クリエイティブって何？自信を持つためには？ #2. なぜからはじめるコンサートづくりとキュレーション #3. 共感することでインサイト(本音)を見つけてみよう #4. デザインチャレンジしてみよう！ #5. なんでこうなっちゃうの？からはじまる人生プロジェクト (遠山正道さんをむかえて) #6. デザインって何？人の体験をデザインしてみよう #7. ビジュアルコミュニケーションデザイン(丸山新さんをむ かえて) #8. プレゼンテーションとストーリーテリング #9. アイデアってどこにあるの？アイデアの見つけ方

他校との提携	不定期	インプロビゼーション（即興）の実施 声楽演習の時間を使ってインプロビゼーションの授業を実施した。 クラーク国際高校との提携により音楽家に必要なパフォーマンス能力の向上を図る。
オンライン聴講 オンライン基礎 講座の実施	5月～3月	オンライン基礎講座の実施 基本的にオンライン、オフラインの二本立てで音楽基礎講座を実施し、より多くの学びを提供した。 次年度はオンラインにしか出来ない学びを追加し更なる拡充を図る。
春学期無料体験会	Jスタジオ	小学生2名 中学1年生6名 中学2年生6名 中学3年生12名 合計26名
交換演奏会		中止
オンラインオープンス クール	10月17日配信	視聴者数、延1,000人 作曲家を年代別に紹介し、曲を視聴できるVRワールドには、300名の来場者があった。 1 校長対談/山本豊津/美術家/アートの未来 2 学校紹介（学校長挨拶/副校長学校説明/音楽科目説明/ 3 ミニ演奏会 4 生徒と校長座談会「学校生活と音楽高校の学び」
室内楽演奏会	7月17日配信	2台ピアノ F. ショパン/2台ピアノのやめのロンド op. 73 八長調/他 ハープ二重奏 F. グラナドス/スペイン舞曲集 op. 37 より Jota/他 木管五重奏 F. ダンツィ/木管五重奏曲ト短調 op. 56-2 より第1楽章/他 ピアノ三重奏 C. サン＝サーンス/ピアノ三重奏曲第2番ホ短調 op. 92 より第1楽章/他 L. v. ベートーヴェン/弦楽四重奏曲 第1番へ長調 op. 18-1 より第1楽章/他
夏期受験講習会	8月9日～12日 池袋・中目黒	声楽14名、ピアノ45名、弦楽器13名、管打楽器12名 作曲3名、音楽総合（ピアノ13名、弦楽器1名）合計92名
秋学期無料体験会	10月2日 Jスタジオ	小学生1名 中学1年生6名 中学2年生10名

		中学3年生3名 合計21名
文化祭	10月30日～31日 配信	オンライン文化祭の実施 クラス毎に動画制作を実施して配信を行った。
推薦演奏会	10月30日	出演者 津野絢音 (pf) R. シューマン/交響的練習曲 op. 13 (1852年度版) 保科結太 (vn) H. W. エルンスト/「夏の名残の薔薇」による変奏曲 肥沼康一郎 (vo) W. A. モーツァルト/オペラ「フィガロの結婚」より “もう飛ぶまいぞこの蝶々” 竹内鴻史郎 (vn) パガニーニ/24のカプリス op. 1より第1番 G. フォレ/komoriuta op. 16 佐々木真 (sax) A. グラス/ノヴァット・サクソと弦楽オーケストラのための協奏曲 op. 109
オペラ発表会	2月27日 Aホール	モーツァルト：歌劇「魔笛」(抜粋)
帰国子女・外国人特別 入学試験	11月3日 J館	海外からの帰国子女及び外国国籍の生徒が受験し、国内のみならず海外の優秀な生徒を確保する。 海外帰国子女1名
吹奏楽演奏会	2月27日 A館ロビー	G. Bizet / L' Arlésienne 1ère Suite G. Allier / Pierre et Pierrette G. Fauré / Pavane Carpenters / I Need to Be in Love L. Dalla / Caruso C. Bolling / Borsalino G. Noris / Party Jive G. Noris / Salsa Sensation (アンコール)
冬期受験講習会	12月24日～27日 池袋・中目黒	声乐16名、ピアノ49名、弦楽器14名、管打楽器13名 作曲3名、音楽総合(ピアノ5名) 合計100名

(2) 付属幼稚園

2021年度は、3年保育39名、2年保育10名、計49名新入園児を迎え、139名でスタートした。新型コロナウイルス感染症対策としては、毎日の検温、こまめな手洗い、手指消毒、うがい、不織布マスクの着用、給食時のパーテーション設置と黙食、遊具・教具の消毒等を徹底して行ったことから、園児にも自然と感染予防の習慣が身についた。3学期に入り、家庭内感染や家族の罹患により濃厚接触となった園児が出たが、園内で感染拡大することもなく、休園までには至らなかった。

園行事としては、親子参加の園外保育と保育参観については感染状況に鑑み、中止せざるを得なかったが、普段の保育の様子を見たいという保護者の声もあり、園児たちの1日の様子を撮影・編集し、保護者向けに動画配信をおこなうことで、参観の替わりとした。また、演奏会についても観客の人数制限をして開催したが、同時にライブ配信をおこなうことを試みた。機材も技術も不十分なために定点撮影しかできず、画質や音声はよいものではなかったが、保護者からは好評だった。

園児募集においても、コロナ感染拡大のあおりをうけ、2回予定していた入園説明会も、1回はWeb配信で行うこととなった。コロナ禍で、保育においても、また園児募集（広報）においても、ホームページの充実、ライブ配信や、動画配信、またオンライン形式でのクラス懇談会や入園説明会など、IT活用が必要不可欠な時代となり、本園としても今後の大きな課題として残った。

2022年度入園の考査においては、出願者は最終的に合計84名に達した。実際の入園手続き者数は、例年のことながら辞退者もでたが、3年保育においては定員40名を上回ることができた。在園児や卒園児の兄弟の入園が4割近く占めたことは今回の考査のひとつの特徴でもあった。

保育カリキュラムにおいては、すみれ組（年中）、ゆり組（年長）の英語授業に外国人講師を迎えたことも大きな変化であった。大人の心配をよそに、子どもたちはすぐに打ち解け、楽しみながら英語に触れることができたようである。

今や本園の特色として欠かせぬ預かり保育は、変わらず盛況であるが、保育室の施設上の問題（人数増加による3密状態）や、スタッフの負担についての課題は、今後、改善を図る必要がある。さらに保護者からは、施設・設備に対する改善の声や園庭の遊具の充実などの要望も出ており、幼稚園改修工事着工までの間も、快適で安全な園生活が送れるよう環境整備に努めることとしている。同時に、有事における園の危機管理について、マニュアルの策定や、訓練の見直しなど、さらなる改善・充実を検討する。

預かり保育	【朝】8:30~9:00 【降園後】月・火・木・金 14:00~18:00 水 11:30~18:00 *開園日の9割以上実施、平均利用者数 約50名 【長期休暇】9:00~18:00 <春> (2021年) 3月18日~4月8日 15回実施 <夏> 7月19日~9月3日 18回実施 (*コロナの影響により8日間休止となる) <冬> 12月22日~1月7日 5回実施
-------	---

ピッコロランド	本園入園を検討している未就園児親子の体験保育。合計7回（1回あたり3クラス）のプログラムを実施。コロナ禍により参加が少ないのではと懸念していたが、毎回ほぼ満員となるほど今年も好評であった。
---------	--

○2021 年度事業概要

事業名	実施時期・場所	事業内容
入園式 始業式	4月9日 池袋キャンパスBスタジオ	3年保育39名、2年保育10名、計49名の新入園児が入園。
運動会	10月10日 豊島区立千登世橋学校・校庭	南池袋小学校校庭改修工事のため、千登世橋中学校・校庭で開催。2年ぶりに屋外で鼓笛隊を披露できた。
入園考査	10月21日、22日 池袋キャンパス幼稚園舎内	3年保育72名/2年保育7名 計79名 出願 （*追加募集により、最終的に3保・76、2保・8出願）
作品展	11月6日～11月7日 池袋キャンパス幼稚園舎内	感染防止として、観覧できる時間をクラスごとに分けるなど、入場制限を行い、開催した。例年と変わらず、園児のたくさんの力作を展示した。なお、作品展と同時開催していた保護者会主催のバザーは2021年度も中止した。
クリスマス 演奏会	12月17日 池袋キャンパスB500	オペレッタ、合唱、木琴合奏、鈴とカスタネットによる分担奏などを披露。鑑賞にあたっては、学年ごとの入れ替え制とした。B300教室で、ライブ配信をおこなった。
卒園演奏会	1月29日 池袋キャンパスBスタジオ	卒園する園児53名がレッスンの成果を発表。 入場制限をおこなう一方、B300にて演奏会の様子をライブ配信した。
ひなまつり 演奏会	2月25日 池袋キャンパスB500	器楽合奏や合唱、オペレッタを披露。鑑賞にあたっては、学年ごとの入れ替え制とした。B300教室で、ライブ配信をおこなった。
卒園式	3月17日 池袋キャンパスBスタジオ	53名が卒園。2年ぶりにシンフォニック・ウインドアンサンブルの生演奏を聴くことができた。感染対策として、卒園児とその保護者のみの参列としたが、卒園児が保護者に対し感謝の気持ちをことばにあらわすなど、感動的で華やかな式典となった。

○2021 年度在籍者数 (2021. 5. 1 現在)

学年	クラス	男	女	合計
年少	さくら1組	10	9	19

	さくら2組	10	10	20
年中	すみれ1組	11	12	23
	すみれ2組	12	12	24
年長	ゆり1組	12	14	26
	ゆり2組	13	14	27
合計		68	71	139

○預かり保育

(平常)

曜日	時間帯	1日平均利用園児数
月・火・木・金	8:30~9:00、 14:00~18:00	約50名
水	8:30~9:00、 11:30~18:00	

(長期休暇中)

期間	実施日数	1日平均利用園児数
春期休暇 3月18日~4月8日	13	7
夏期休暇 7月19日~9月3日	19	22
冬期休暇 12月21日~1月7日	7	21

○レッスン実績(2021.5.1現在)

		ピアノ	ヴァイオリン	マリンバ	うた	リトミック	合計
さくら(年少)		0	0	0	0	39	39
すみれ(年中)		21	12	1	13	47	94
ゆり (年長)	継続履修	29	10	1	10	50	100
	追加履修	0	0	0	0	0	

○課外授業

課外授業名	年間授業数	平均参加園児数
カワイ絵画造形教室	各 約25回	約50名
英語教室(ボーダーリング)		約30名
ジャクパ体操教室		約90名
学研ブレイルーム		約55名

(3) 付属音楽教室

付属音楽教室は、幼児、小学生、中学生及び高校生を対象とし、実技レッスン、ソルフェージュによる音感教育及び音楽基礎知識(音楽理論)など、音楽大学付属の教室としてバランスのとれた高度な音楽教育を行うことを目的に 2021 年度においても次のとおり事業を推進した。

○2021 年度の演奏会

- ・オータムコンサート：2021 年 6 月 20 日（日） TCM ホール
- ・学内演奏会：2021 年 11 月 13 日（土） 100 周年記念ホール

○2021 年度の主要コンクール入賞

- ・第 75 回 全日本学生音楽コンクール ヴァイオリン部門 小学校の部 東京大会 入選
- ・第 75 回 全日本学生音楽コンクール ヴァイオリン部門 中学校の部 東京大会 入選
- ・第 75 回 全日本学生音楽コンクール ピアノ部門 中学校の部 東京大会 入選
- ・第 7 回 刈谷国際音楽コンクール 弦楽器部門 中学生の部 奨励賞

○付属音楽教室 2020 年度在籍者数

- ・在籍者数 104 名（入室生 56 名、オープンシステム受講生 48 名）
- ・付属幼稚園ソルフェージュクラス 11 名（園児 7 名、卒園児 4 名）

3-4. 業務運営の改善及び効率化

(1) 組織運営

○規程の制定及び一部改正等について

【令和 3 年 4 月 1 日施行】

- ・学校法人東京音楽大学給与規程 別表（教学主任の設置に伴う一部改正）

【令和 3 年 5 月 26 日施行】

- ・東京音楽大学楽器貸与規程（新設）

【令和 3 年 7 月 15 日施行】

- ・学校法人東京音楽大学資産運用規定（提案責任者に関わる一部改正）

【令和 3 年 10 月 1 日施行】

- ・東京音楽大学新型コロナウイルス感染拡大に伴う家計急変者への令和 3 年度授業料減免の特例措置に関する規程（新設）

【令和 3 年 11 月 10 日施行】

- ・東京音楽大学自己点検・評価委員会規程（組織変更により一部改正）

【令和 4 年 1 月 12 日廃止】

- ・イングリッシュ・スタディー・センター規程（組織変更に伴う廃止）
- ・東京音楽大学アドミッション・オフィス規程（組織変更に伴う廃止）

【令和 4 年 2 月 9 日施行】

- ・学校法人東京音楽大学公益通報者保護規程（担当部署変更に伴う一部改正）

【令和 4 年 3 月 1 日施行】

- ・東京音楽大学内部質保証推進規程（新設）

- ・学校法人東京音楽大学危機管理規程（新設）

【令和4年3月1日廃止】

- ・東京音楽大学自己点検・評価委員会規程（代替規程新設に伴う廃止）

【令和4年3月23日施行】

- ・東京音楽大学学長代行設置規程（新設）

【令和4年4月1日施行】

- ・学校法人東京音楽大学組織規程（職位の追加による一部改正）
- ・東京音楽大学教職課程委員会規程（教育職員免許法施行規則一部改正への対応）
- ・東京音楽大学事務分掌規程（組織変更に伴う一部改正）
- ・東京音楽大学学則（専攻別定員廃止に伴う一部改正）
- ・東京音楽大学演奏委員会規程（副委員長設置に伴う一部改正）
- ・東京音楽大学女子学生寮寮則（新学制寮建設に伴う一部改正）
- ・東京音楽大学における公的研究費取扱規程（文科省ガイドライン一部改正への対応）
- ・東京音楽大学付属高等学校学則（文科省指導要領一部改正への対応）

○新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス禍において、前年度については入学式を中止とする対応をとったが、2021年度においては感染対策を充分に行った上で入学式を執り行った。

また、2021年9月～11月にかけて、新型コロナワクチン職域接種（1回目、2回目）を学外のクリニックと連携し、全学生と教職員は勿論、その家族及び関係業者（食堂・警備部門等）も対象にして実施した。3回目の職域接種についても東京大学と連携し、同様の対象で2022年3月より実施中である。

前年度に設けた学内の「感染症対策ガイドライン」は、学内外を含めた感染状況の変化や、国及び東京都からの各種通知内容に対応し、衛生委員会にて検討した上でその内容を随時更新し、公表を行った。

事業名	実施時期	場所	事業内容
新型コロナワクチン職域接種（1～2回目）	9月～11月	海老根ウィメンズクリニック	本学職域接種として、622名、1208件のワクチン接種を行った。本学関係者だけでなく、その家族、取引企業、近隣住民
新型コロナワクチン職域接種（3回目）	3月～	東京大学	にも対象を拡げ、文部科学省から地域貢献の認定を受けた。

○給与制度改革

・教員

専任教員については、2021年度中に「給与等研究会」を10回開催し、専任教員の給与改定に関する骨格案を検討した。2022年度中に給与規程改定案として取りまとめ、2023年度から新規定による給与支給を開始したい。また、非常勤教員については、2021年3月に制定した「非常勤教職員の給与に関する規程」に基づく給与支払いを、2022年4月から実施

することとなった。その準備として現職の非常勤教員を、その勤務態様に沿って、①出来高制 ②年俸制 ③月給制 ④(労働契約になじまない)業務委託制 の4つに分類し、それぞれの「雇用契約書(兼雇用条件通知書)」及び「業務委託契約書」を作成し、各非常勤教員に通知した。

・職員

省資源及び人事課業務の合理化のため、2021年10月より、「職員」に対し先行して給与明細及び源泉徴収票の電子化を実施した。2022年度以降、順次対象を「教員」に拡大していく予定である。

事業名	実施時期	事業概要
令和3年度 給与等研究会	5月～3月 (10回)	専任教員の給与規程改定作業 1. 過去の給与研(2015年9月～2016年5月)の棚卸 2. 給与規定改定案の骨子作成及び検討
改定給与規定に基づく非常勤教員の雇用条件検討	4月～3月	非常勤教員の雇用条件作成・通知作業 1. 勤務実態に基づく雇用条件(出来高制・年俸制・業務委託制等)の仕分け 2. 雇用契約書・業務委託契約書の作成・通知
給与明細等の電子化	10月～	給与明細・源泉徴収票の電子化 1. 既存システム(LeySerPlus)の拡張機能利用により、給与明細・源泉徴収票をデータにより配付 2. まず職員を対象とし、2022年度に教員に拡大予定
令和4年度 教員人事計画	7月～3月	人事委員会及び作業部会による教員人事計画策定 1. 「作業部会」による各部会への方針説明及びヒアリングの実施 2. 人事委員会による審議の実施
社会保険関連業務の外部委託	12月～1月	社会保険労務士・小泉事務所との業務委託契約締結 1. 雇用保険代理申請等各種社会保険業務の委託 2. 労務管理相談

○労働契約の適正化

・教員

改正労働契約法第18条に定める無期転換ルールに適切に対応するため、各部会に対する教員人事計画における非常勤教員・助手・研究員及び教務補佐パート職員の雇用継続確認を行い、無期転換が迫る一部の教員については、2021年度ないし2022年度を以て契約終了する旨を約定した。

・職員

事務局内の契約職員については、採用時の前提条件とした契約更新の上限(2回まで)を再確認し、雇用者側の認識と齟齬が出ないよう、提携社労士の助言をふまえ更新時の契約書にその旨明記した。

○事務職員研修

事務局職員向けに2021年11月、SMBCコンサルティングが提供するビジネスセミナー（Wセミナー）を受講ルール整備のうえ運用開始した。まだ、利用者は限られているが、職員が自らのニーズに沿って活用できる研修コンテンツとして引き続き利用促進に努めたい。

(2)事務の効率化・合理化

○社会保険関係事務の効率化

人事課業務の効率化・迅速化のため、2021年12月より、近隣の社会保険労務士事務所と業務委託契約を締結した。雇用保険等の代理申請・電子申請が可能になる共に日常の労務管理に対する適切な助言が得られるようになり、社会保険及び労務管理業務の職員負荷が軽減された。

○調達手続きの適正化・効率化の推進

2020年度から消耗品及び備品の発注等については、施設課に集約することで、予算の的確かつ効率的な執行手続きを行える体制を整えた。

これまでは、各部署等において調達手続きを行っていたが、2020年5月12日に通知した「備品等の発注・検収に関する取扱い要領」に基づき、各部署から購入申請書を施設課へ提出し、適正な手続き（必要な仕様書を作成し、原則3社からの見積徴取し、契約締結、納品検収、支払申請）を行っている。その結果、2020年度は、支払管理システム（キントーン）の処理件数4,533件のうち、施設課において処理した手続きは1,243件となった。今後は、業務ごとに、仕様書・契約書の定型化を行い、より適正かつ効率的な執行が求められる。

○学修成果の可視化等への取組み

本学事務局にIR室が設置(2018年9月)された直後の2018年11月26日、中央教育審議会より答申のあった「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、2040年の展望と高等教育が目指すべき姿として、(1)学修者本位の教育への転換が不可欠であること。(2)教育研究体制としては多様性と柔軟性において、多様な学生、多様な教員、多様な教育プログラム、多様性を受け止める柔軟なガバナンス及び大学の多様な「強み」の強化などの確保が重要であること。

(3)教育の質の保証と情報公表として、「学び」の質保証の再構築が必要であることが示された。また、2020年4月における学校教育法や私立学校法の改正などの法的な整備が進む中で、本学における教育研究水準の維持や、大学評価基準への適合、運営基盤の強化及び透明性に努めることが求められている。本学が置かれている環境は、従前と比較して大きく変わってきており、中期的計画の策定や具体的な運営において、エビデンスベースで行うことが不可欠になっていることから、「東京音楽大学 FACT BOOK」を充実させ、本学にとってより効果的で実効性のある業務遂行(将来構想、計画策定、政策決定、経営判断等)を進めるための意思決定支援ツールとする。

本学においては、IR室設置後より「東京音楽大学 FACT BOOK」作成に係る計画が進行しており、学内外の諸情報の収集・分析及び可視化を推進するため、複数年にわたり教育、研究、財務等に関する現状を包括的に把握し、他大学との比較についても含みながら見やすい図や表、グラフ等に整理する取組みを継続的に行い、2021年6月に内部向け、7月に外部向けの「東京音楽大学 FACT BOOK 2020」を第一版として作成・公開した。

また、大学機関別認証評価への対応として各評価基準項目に対応するエビデンス収集・整理し、2022年度の認証評価に備えるための業務を推進した。

○2 キャンパス運用に伴う業務の合理化

池袋キャンパスにおいて、清掃・衛生・設備管理業務、建物・設備保全業務、警備防災業務を担当している業者からの申出により、令和2年9月末をもって契約解除することとなった。今回の契約解除に伴い新たな業者選定を行い、中目黒・代官山キャンパスにて、これらの業務を担当している業者のこれまでの業務実績等に鑑み、池袋キャンパスの業務についても同業者に委託することとなった。

現状キャンパス単位で別々に同業者と契約を締結しているため、2020年度は両キャンパスとしてこれら業務の一元化、複数年契約の締結に向け、仕様書及び契約書について検討を行い、契約締結の準備を行った。

○施設の有効活用

2020年5月27日の理事会において、本学施設（ホール・教室等）の貸出業務を分掌する社会連携部事業課を事務局に新たに設置し、2019年度に制定した「東京音楽大学施設貸出規程」に基づき、中目黒・代官山キャンパス、池袋キャンパスの両キャンパスにおいて、教育研究及び社会貢献に関わる活動を目的とした諸団体に対し、積極的な施設貸出を行った。

- ・2020年度施設貸出、ロケーション事業実績 34件

○高度情報化

・学内外ネットワーク通信の健全化を図るため、問題のあるネットワークの検知・通信の遮断、各ネットワーク機器の通信量の状況調査を行い、授業・業務利用に最適なネットワーク状況となるよう調整を行った。

・Wi-Fiサービスの電波強度・エリア拡充等による通信品質の改善として、利用に即した快適な通信環境を維持できるよう対策を行うとともに、認証サービスの改善により、利用者別の管理を計画したところであり、2022年度中の構築を予定している。

・授業の動画配信や非対面での授業が必要不可欠になったことで、メールの利用やテレビ会議システムの活用などITに関する利用レベルが急速に向上した。2021年度は、全教員へメールアドレスの発行・利用を促進するとともに、全学生へのメールアドレス発行準備を行った。

・池袋キャンパスの通信集約として、TCM学生寮への新規ネットワーク整備を実施するとともに、A館、B館、J館の光回線の整備を行った。通信を集約したことで、無駄のない安定した通信状況を確保することができ、今後、ネットワークの拡張を視野に入れ運用を行う。

2021年度事業概要

事業名	実施時期	場所	事業内容
B館Wi-Fi整備	2021/4～	池袋	新規にアクセスポイントを設置し、遠隔授業等が快適な状況となるよう整備を実施した。

動画配信サービスの導入検討	2021/4～	中目黒	遠隔授業実施にともない学生へ安定した授業動画の提供ができるように検討・整備を行う。→対面授業を主とする方針となったため一旦保留とする。
GoogleWorkspace 導入	2022/2～	中目黒 池袋	GoogleWorkspace を契約し、教員にメールアドレスを配布するなど利用環境整備を行った。学生の利用開始は2022年度予定に変更。
共有ストレージサービスの拡張		中目黒	導入した共有ストレージを利用しストレスのないファイル共有が行えるように環境整備を行った。
ネットワーク監視強化		埼玉DC 中目黒 池袋	学内ネットワークトラフィックの監視により内外セキュリティインシデントの早期発見と改善対応を行った。
PC/AV 機器類の管理・運用 コピー機・複合機の管理・運用 ネットワーク機器類の管理・運用 ホームページ作成支援・サーバー運用管理		中目黒 池袋	学内 IT 関連サービス及び機器類の管理・運用を継続して行った。
IP 電話サービスの改善・運用 デジタルサイネージ運用管理 建物内鍵施錠管理アプリ・サービスの管理・運用		中目黒	中目黒・代官山キャンパスに導入されているサービスの管理・運用を継続して行った。
IT 活用のための啓蒙・通知活動		中目黒 池袋	学内情報セキュリティの管理を行う為の人員の調整・育成を行った。学内に整備された IT サービスの各利用マニュアル・手順書の整備並びに情報資産に対する適切な管理・利用を想定した啓蒙活動や通知活動により、組織全体の IT 利用レベルの向上を図った。
新学生寮ネットワーク整備	2022/2～3	池袋	新学生寮のネットワーク整備を行った。上記工事との調整より、B館、J館への光回線を追加整備し監視カメラネットワークのA館集約（一元管理）と、学生寮の鍵施錠管理もA館にて行うよう設計・導入を行った。

(3) 自己点検・評価活動の充実

自己点検・評価委員会において、2020～2021 年度事業に係る自己点検・評価を実施し、報告書の作成を行った。また、2022 年度の大学機関別認証評価の受審に向けて法令遵守状況に係る確認作業(教育関連の各種規程の確認)を実施した。

3-5. 法人運営の改善

(1) 経営・ガバナンス強化

○法人経営

2020年4月1日施行の改正私立学校法では、学校法人の三つの責務規程（運営基盤の強化、教育の質の向上、運営の透明性の確保）が新設された。制度改正として「学校法人の管理運営制度の改善（役員の職務及び責任の明確化等に関する規程整備）」、「事業に関する中期的な計画の作成（認証評価等を踏まえた事業計画及び事業に関する中期的な計画の策定を義務付け）」及び「学校法人の運営の透明性の向上（学校法人としての情報公開の充実）」などが法定化された。本学においても寄附行為の変更申請をはじめ法改正に関連した本学の規程改正のを行い、法人経営と学校運営の公共性・透明性を確保の上、事業を推進している。

また、文部科学省の指導・助言に従い、経営基盤の安定を図るため、不動産売却、学生数確保及び経費削減に積極的に取り組み、適切な経営改善に努めている。

○東京音楽大学ガバナンス・コードの策定

本学が今後も社会からの信頼と支援を得て役割を果たし続けるため、自律的で意欲的なガバナンスの改善が必要であることから、学校法人の「公共性」とともに、「自主性」を尊重したガバナンス・コードを持つことに重要な意義があるとの認識の下、自律的な「東京音楽大学ガバナンス・コード」について、2021年10月13日理事会で審議・制定した。

また、ガバナンス・コードに係る取り組み等の実施状況について、「学校法人東京音楽大学ガバナンス・コード適合状況に係る点検・確認に関する方針(2021年10月13日制定)」を定め、それに沿った点検・確認を実施するとともに、監事のチェックを受け「適合状況調査報告書」により、評議員会及び理事会に報告の上、ホームページに公表した。

3-6. 施設整備計画

(1) 教育研究環境の整備

○コロナ感染対策

2021年度の空気清浄機設置については、食堂、教室、レッスン室等に117台（うち、70台が後援会からの寄贈）設置し、次年度は、残りの未設置教室等に設置する予定である。また、飛沫感染防止パーテーションについては、コロナ発生後、2020年5月から対面授業用の床置きものを導入し、2021年度は食卓用のもの、事務スペース用のものを設置した。なお、その他の対策として、授業時の消毒液・ペーパータオル、演奏会前の感染チェックのための抗原検査キット、サーマルカメラ等の購入など、2021年度においても、適宜、感染対策の向上に資する取り組みを実施した。

○総合施設管理への一元化

2021年度においては、受電か所ごとに、2社の電気保安法人と各々契約していた保安規程委託業務を、一括管理できるように集約し、効率的で適切な保安ができるように、2022年3月に契約締結した。

○土地売却

高大連携推進等のための、付属高等学校と学生寮の池袋キャンパスの移転整備に伴い、未利用地となった寮敷地を、各々、2021年8月と2022年3月に引渡決済をした。また、志木研修所敷地は、2021年6月に引渡決済をした。

(2)安全管理

○防災・危機管理体制の充実

目黒区と2019年9月10日に締結した「災害時における協力体制に関する協定書」に基づき、「一時滞在施設運営マニュアル」を策定した。目黒区防災課や中目黒駅周辺帰宅困難者対策協議会等の連携により、大地震発生時を想定する等したものである。今後、ホームページに掲載し、地域ボランティアを募集する等、地域貢献にも資することとしている。

○安全衛生管理の推進

教職員の安全衛生について衛生委員会及び産業医との連携を強化するため、定期健康診断と衛生委員会に関する業務分掌を総務課から人事課に一元化した。また、労働安全衛生に関する人事課員の専門性を高めるため、若手職員2名が外部研修に臨み、第一種衛生管理者免許試験に合格した。

○PCB廃棄物処理事業

- ・売却する旧付属高等学校校舎、目白台学生寮に保管されていたPCB含有の変圧器、コンデンサーは、2020年度までに搬出し、処理を2021年度に終了した。
- ・2021年3月24日、B館電気室のPCB廃棄物を搬出する際に、搬出業者がPCB含有の安定器が残置されていることを発見した。なお、このPCB廃棄物は、2021年7月に処理を完了した。
- ・2021年3月24日のPCB含有安定器の発見を受け、池袋キャンパス全棟の照明器具の再調査を実施し、41台のPCB含有の安定器を確認した。このPCB含有の安定器は、次年度早急に処分することとしている。

Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要

2020年度「東京音楽大学中期目標・中期計画（2016年度開始6年計画）」の6年目であり、コロナ禍等各種制約の中、教育の質を維持する諸施策について取組み、多大な成果を挙げることができた。

池袋に新学生寮を建設。また、高校・目白台学生寮・目白台グラウンド・志木学生寮を売却した。

予算編成及び執行について、「学生本位」との信条のもと、編成重点方式採用と、執行についても、必要性の是非を検討しつつ、きめ細かく実施した。

2. 今後の展望

中目黒・代官山キャンパス、池袋キャンパスとの2キャンパス体制における施設設備面の充実に力を注ぐとともに、中長期的財務計画を定め、財務の健全化に全力で取り組む。

(1) 貸借対照表の状況

法人全体の総資産は408億円となり、前年度より28億円増加となっている。

○有形固定資産：△1,200百万円

- ・高校(△258,722,500円)・目白台学生寮(△111,557,000円)
- ・目白台グラウンド(△895,757,202円)・志木学生寮売却(△26,750,000円)
- ・新学生寮建設(1,091,913,000円)

○固定負債：△795百万円

- ・長期未払金の返済、長期借入金の減少（元本返済による）、退職給与引当金の減少。

本資料については、百万円で表示する際に、百万円未満を切り捨てているため、合計などにおいて計算書類と一致しない場合があります。

貸借対照表

2022年3月31日現在

■資産の部

(単位：百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	37,624	36,780	843
有形固定資産	28,498	29,698	△ 1,200
土地	10,183	11,476	△ 1,292
建物	16,882	16,304	578
構築物	81	95	△ 14
教育研究用機器備品	309	409	△ 99
管理用機器備品	236	265	△ 28
図書	803	805	△ 1
車輛	0	0	0
建設仮勘定	0	341	△ 341
特定資産	1,366	1,369	△ 3
第3号基本金引当特定資産	218	215	3
退職給与引当特定資産	1,147	1,153	△ 6
その他の固定資産	7,759	5,712	2,047
借地権	2,515	2,515	0
電話加入権	0	0	0
有価証券	5,079	2,990	2,089
排出権	3	3	0
商標権	28	32	△ 4
ソフトウェア	128	166	△ 37
長期前払金	4	4	0
流動資産	3,220	1,221	1,998
現金預金	2,983	1,043	1,940
未収入金	212	160	52
前払金	22	17	4
立替金	2	0	2
仮払金	0	0	0
資産の部 合計	40,844	38,002	2,842

■負債の部

(単位：百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	10,657	11,459	△ 802
長期借入金	9,506	10,301	△ 795
退職給与引当金	1,147	1,153	△ 6
長期未払金	0	1	0
長期前受金	2	2	0
流動負債	1,992	2,036	△ 44
短期借入金	795	800	△ 5
未払金	416	279	136
前受金	726	903	△ 177
預り金	54	52	1
負債の部 合計	12,649	13,496	△ 847

■純資産の部

(単位：百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	34,259	35,967	△ 1,708
第1号基本金	33,758	35,470	△ 1,712
第3号基本金	218	215	3
第4号基本金	282	282	0
繰越収支差額	△ 6,063	△ 11,462	5,398
翌年度繰越収支差額	△ 6,063	△ 11,462	5,398
純資産の部 合計	28,195	24,505	3,690
負債及び純資産の部 合計	40,844	38,002	2,842

(2) 収支計算書の状況

① 資金収支計算書

本資料については、百万円で表示する際に、百万円未満を切り捨てているため、合計などにおいて計算書類と一致しない場合があります。

資金収支計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

■ 収入の部

(単位：百万円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,485	3,492	△ 7
手数料収入	26	24	2
寄付金収入	80	18	61
補助金収入	469	464	5
資産売却収入	5,455	6,452	△ 997
付随事業・収益事業収入	42	0	42
受取利息・配当金収入	52	81	△ 29
雑収入	126	170	△ 43
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	964	726	238
その他の収入	2,144	1,782	361
資金収入調整勘定	△ 1,103	△ 1,116	12
前年度繰越支払資金	1,043	1,043	
収入の部 合計	12,787	13,138	△ 351

■ 支出の部

(単位：百万円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,525	2,685	△ 160
教育研究経費支出	949	830	118
管理経費 支出	284	266	18
借入金等利息支出	38	39	△ 1
借入金等返済支出	852	800	51
施設関係支出	974	820	154
設備関係支出	63	138	△ 75
資産運用支出	0	3,492	△ 3,492
その他の支出	1,327	1,513	△ 186
〔予 備 費〕	80		80
資金支出調整勘定	△ 215	△ 432	217
翌年度繰越支払資金	5,907	2,983	2,924
支出の部 合計	12,787	13,138	△ 351

②活動区分資金収支計算書

本資料については、百万円で表示する際に、百万円未満を切り捨てているため、合計などにおいて計算書類と一致しない場合があります。

活動区分資金収支計算書			
2021年4月1日から2022年3月31日まで			
		(単位：百万円)	
科目		金額	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	3,492
		手数料収入	24
		特別寄付金収入	10
		一般寄付金収入	6
		経常費等補助金収入	454
		雑収入	170
		教育活動資金収入計	4,158
	支出	人件費支出	2,685
		教育研究経費支出	830
		管理経費支出	266
		教育活動資金支出計	3,782
	差引		376
調整勘定等		530	
教育活動資金収支差額		906	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	1
		施設設備補助金収入	9
		施設設備売却収入	5,455
		施設整備等活動資金収入計	5,465
	支出	施設関係支出	820
		設備関係支出	138
		施設整備等活動資金支出計	959
	差引		4,506
	調整勘定等		△ 612
	施設整備等活動資金収支差額		3,893
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		4,800	
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	997
		第3号基本金引当特定資産取崩収入	100
		退職給与引当特定資産取崩収入	306
		預り金受入収入	1,195
		立替金回収収入	3
		仮払金回収収入	13
		小計	2,616
		受取利息・配当金収入	81
		その他の活動資金収入計	2,697
		支出	借入金等返済支出
	有価証券購入支出		3,089
	第3号基本金引当特定資産繰入支出		103
	退職給与引当特定資産繰入支出		300
	立替金支払支出		6
	仮払金支払支出		12
	預り金支払支出		1,193
	小計		5,506
	借入金等利息支出		39
	その他の活動資金支出計	5,545	
差引		△ 2,847	
調整勘定等		△ 12	
その他の活動資金収支差額		△ 2,859	
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		1,946	
前年度繰越支払資金		1,043	
翌年度繰越支払資金		2,983	

③事業活動収支計算書

本資料については、百万円で表示する際に、百万円未満を切り捨てているため、合計などにおいて計算書類と一致しない場合があります。

事業活動収支計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

■教育活動収支

(単位：百万円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,485	3,492	△ 7
手数料	26	24	2
寄付金	80	20	59
経常費等補助金	469	454	15
付随事業収入	11	0	11
雑収入	126	177	△ 50
教育活動収入計	4,199	4,169	30
人件費	2,525	2,679	△ 153
教育研究経費	1,590	1,438	152
管理経費	393	459	△ 66
徴収不能額等	5	0	5
教育活動支出計	4,514	4,577	△ 62
教育活動収支差額	△ 314	△ 408	93

■教育活動外収支

(単位：百万円)

科 目	予 算	決 算	差 異
受取利息・配当金	52	81	△ 29
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	52	81	△ 29
借入金等利息	38	39	△ 1
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	38	39	△ 1
教育活動外収支差額	14	42	△ 28
経常収支差額	△ 300	△ 365	65

■特別収支

(単位：百万円)

科 目	予 算	決 算	差 異
資産売却差額	4,162	4,162	0
その他の特別収入	3	17	△ 14
特別収入計	4,165	4,179	△ 14
資産処分差額	100	124	△ 23
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	100	124	△ 23
特別収支差額	4,064	4,055	9

[予 備 費]	80	80	
基本金組入前当年度収支差額	3,684	3,690	△ 5
基本金組入額合計	△ 1,038	△ 3	△ 1,034
当年度収支差額	2,646	3,686	△ 1,040
前年度繰越収支差額	△ 11,462	△ 11,462	0
基本金取崩額	1,377	1,712	△ 334
翌年度繰越収支差額	△ 7,438	△ 6,063	△ 1,375

2. 基本金明細表・主な財務比率

本資料については、百万円で表示する際に、百万円未満を切り捨てているため、合計などにおいて計算書類と一致しない場合があります。

基本金明細表

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：百万円)

事 項	要組入高	組入高	未組入高	
第1号基本金	前期繰越高	45,200	35,470	9,729
	当期取崩高	△ 2,477	△ 1,712	△ 765
	当期末残高	42,722	33,758	8,964
第3号基本金	前期繰越高	—	215	—
	当期組入高	—	3	—
	当期末残高	—	218	—
第4号基本金	前期繰越高	282	282	—
	当期取崩高	—	—	—
	当期末残高	282	282	—
合 計	前期繰越高	—	35,967	9,729
	当期組入高	—	3	—
	当期取崩高	—	△ 1,712	—
	当期末残高	—	34,259	8,964

財務比率

■ 事業活動収支関係財務比率

(単位：%)

比率項目	算出基準	評価	2019年度	2020年度	2021年度
人件費比率	人件費/経常収入	▼	65.43	61.35	63.03
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	▼	81.73	75.25	76.72
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	△	34.80	38.48	33.84
管理経費比率	管理経費/経常収入	▼	13.68	13.16	10.82
寄付金比率	寄付金/事業活動収入	△	1.73	0.87	0.34
補助金比率	補助金/事業活動収入	△	11.04	12.02	5.51
基本金組入率	基本金組入額/事業活動収入	△	41.70	19.40	0.04

■ 貸借対照表関係財務比率

(単位：%)

比率項目	算出基準	評価	2019年度	2020年度	2021年度
固定資産構成比率	固定資産/総資産	▼	92.14	96.79	92.12
有形固定資産構成比率	有形固定資産/総資産	▼	74.63	78.15	69.77
特定資産構成比率	特定資産/総資産	△	3.24	3.60	3.34
流動資産構成比率	流動資産/総資産	△	7.86	3.21	7.88
固定負債構成比率	固定負債/総負債+純資産	▼	33.10	30.16	26.09
流動負債構成比率	流動負債/総負債+純資産	▼	4.17	5.36	4.88

※評価・・・「△：高い値が良い」、「▼：低い値が良い」

3. 財産目録

本資料については、百万円で表示する際に、百万円未満を切り捨てているため、合計などにおいて計算書類と一致しない場合があります。

財産目録

2022年3月31日現在

(単位：百万円)

I. 資産総額	40,844
内 (一) 基本固定資産	37,624
(二) 運用財産	3,220
II. 負債総額	12,649
III. 正味財産	28,195

(単位：百万円)

I. 資産総額		
(一) 基本固定資産		
1. 土地	51,944.95 m ²	10,183
2. 建物	53,781.47 m ²	16,882
3. 構築物		81
4. 教育研究用機器備品	3,914 件	309
5. 管理用機器備品	983 件	236
6. 図書	324,393 冊・点	803
7. 車両		0
8. 建設仮勘定		0
9. 借地権	7,149.75 m ²	2,515
10. 電話加入権	4 件	0
11. 有価証券		5,079
12. 特定資産		1,366
13. 保証金		0
14. 排出権		3
15. 商標権		28
16. ソフトウェア		128
17. 長期前払金		4
(二) 運用財産		
1. 現金・預金		2,983
2. 未収入金		212
3. 短期貸付金		0
4. 前払金		22
5. 立替金		2
6. 仮払金		0
資産の部	合計	40,844

(単位：百万円)

II. 負債総額	
(一) 固定負債	
1. 長期借入金	9,506
2. 長期未払金	0
3. 退職給与引当金	1,147
4. 長期前受金	2
(二) 流動負債	
1. 未払金	416
2. 短期借入金	795
3. 前受金	726
4. 預り金	54
負債の部	合計
	12,649

(単位：百万円)

III. 正味財産	28,195
-----------	--------